

取扱説明書

手動兼用型電動車いす アクトモア エレッシュ

リチウムイオンバッテリー / ニッケル水素バッテリー

このたびは、本製品をご利用いただき、まことにありがとうございます。
この「取扱説明書」には、本製品を安全にお使いいただくための注意事項
や使用方法などを記載しています。

- 本製品をお使いになる前に、必ずこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しく安全な取扱方法を理解してください。
- この「取扱説明書」はお読みになった後も、いつでも見られる場所に保管してください。
- 本製品は、改良などにより「取扱説明書」の内容と一部異なる場合もあります。
- ご不明な点がございましたら、当社までお問い合わせください。

株式会社フロンティア

目次

1	ご使用上の注意	P2	9	電動部の操作方法	P21
2	製品の特長	P6		車いすに座る	P21
3	各部の名称	P7		車いすを動かす	P21
4	適合調整	P9		自走用操作部の速度調整・確認方法	P22
5	使用前の準備と点検	P12		走行中のバッテリー残量確認	P23
	車いすの点検	P12		その他の機能	P24
	服装のチェック	P13		車いすから降りる	P24
	バッテリーの残量確認と取り付けかた	P13		バッテリーを取り外す	P25
6	走行診断チェック	P14		介助用操作部の使いかた	P25
	使用者のかたへ	P14	10	バッテリーのご使用方法	P27
	介助者のかたへ	P14		バッテリーの種類	P27
7	基本操作の練習	P15		バッテリーの特長	P27
8	ご使用方法	P16		バッテリーの使いかた	P27
	開きかた、たたみかた	P16		バッテリーの特性と取り扱い	P28
	フット・レッグサポートのスイングアウト・着脱	P17		バッテリーの充電方法	P29
	アームサポートの使いかた	P17		充電ランプの表示と内容	P32
	駐車ブレーキの掛けかた	P18	11	保守・点検	P33
	移乗のしかた	P18	12	故障かな?と思ったら	P34
	外出時の注意点	P19	13	仕様	P40
	航空機に乗るとき	P20			

1 ご使用上の注意

⚠ 危険

【死亡または重傷を招くもの】

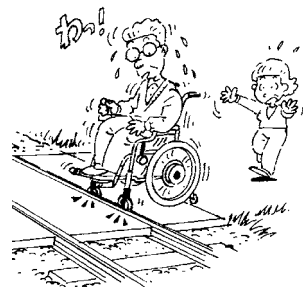


- 勾配が6度以上の坂では使用しないでください。
転倒したり、制動がきかなくなるおそれがあります。
- 本製品は、法令上は身体障がい者用車いすとなり、道路を走るときは歩行者として扱われます。
歩行者としての交通ルールやマナーを守ってください。
- 加速時の急カーブ、急停止はしないでください。
バランスを崩しやすく転倒するおそれがあります。
- 次のような場所では走行を避けてください。
 - ・交通量の多い道路 ・砂利道 ・凹凸のある道 ・ぬかるみ ・雪道 ・凍結路
 - ・防止柵のない側溝や路肩付近など ・崖 ・川土手 ・海岸防波堤上 ・その他危険な場所
- 次のような場合は走行を避けてください。
 - ・夜間 ・雨天 ・濃霧 ・強風 ・その他危険が予想される場合夜間は側溝や障害物などが発見しにくくなり危険です。雨天時は路面がすべりやすくなり危険です。
- 次のような場所は必ず介助者が付き添い、使用者の体を支えるなど注意しながら使用してください。
 - ・狭い道 ・踏み切り ・横断歩道 ・駅のホーム ・エレベーター ・車いす対応の動く歩道
 - ・車いす対応の福祉車両 ・その他危険が予想される場所

⚠ 警告

【死亡または重傷を招く可能性があるもの】

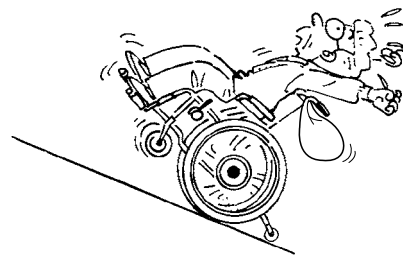
- 使用者がひとりで走行する場合や介助者が同行・操作する場合は、必ず使用者や介助者の適性を専門家の意見を参考に判断してください。
使用者や介助者の意見だけで判断すると、使用者や介助者、周囲の人がケガをするおそれがあります。
- 操作に慣れるまで、平坦で安全な場所で介助者同伴のもと、走行の練習をしてください。
不慣れな状態で一般公道に出ると、使用者や周囲の人がケガをするおそれがあります。
- お酒を飲んだり、眠くなる薬を飲んだ場合は運転をしないでください。
- 使用する環境や場所によっては、介助者の同行や操作が必要な場合があります。
単独走行では、事故やケガをするおそれがあります。
- 踏み切りの横断やエレベーターの乗り降りの際は、車輪をレールに対して直角にして走行してください。
斜めの角度で進入するとレールの溝にはまって危険です。必ず介助者と一緒にならしてください。
- 本製品の改造や分解はしないでください。
強度や耐久性が低下したり、事故の原因となるおそれがあります。
- 本説明書に記載されている調整箇所以外の調整を行わないでください。
事故の原因となります。調整が必要な場合は当社まで連絡してください。
- 本製品を火気に近づけないでください。
シート部が燃えたり、プラスチックなどの変形や熱くなった金属部分でやけどをするおそれがあります。
- 車いす本体や車輪に異常がある状態で使用しないでください。
走行中に車いすが壊れて、転倒や転落するおそれがあります。異常が見つかったらただちに使用を中止してください。
- 駆動輪の空気圧が下がったまま使用しないでください。
駆動輪の空気圧が下がると駐車ブレーキが効かなくなるおそれがあり危険です。標準空気圧は、大人が親指で押し少しへこむ程度です。
- 本製品の使用者最大体重(100kg)を守ってください。
- 車いすは1人乗り用です。2人以上で座って動かさないでください。
介助者は、絶対に車いすに乗って介助しないでください。
- 車いすでけん引をしないでください。
車いすが故障したり、ケガをするおそれがあります。
- 本製品を物品運搬や歩行の補助用具としてなど、車いす以外の目的で使用しないでください。
- 座面シート以外の部分に腰掛けしないでください。
- 混雑した場所で使用するときは、まわりに十分注意をしてください。



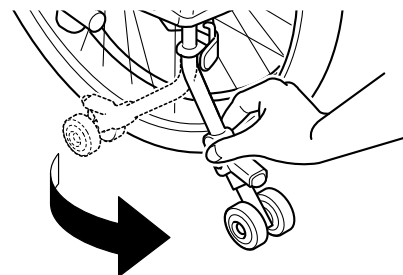
警告

【死亡または重傷を招く可能性があるもの】

- エスカレーターでは使用しないでください。
介助者がいる場合でも、転倒などにより事故の原因となるおそれがあります。
- ハンドル部に重い荷物を掛けたり、背シートの小物入れに重いものを入れて運転しないでください。
上り坂で後ろに倒れやすくなり、使用者や周囲の人がケガをするおそれがあります。



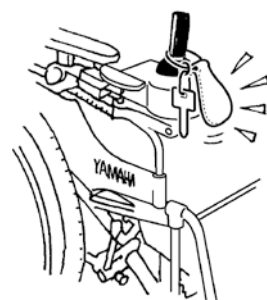
- 転倒防止バーを外したり格納したままで走行しないでください。
転倒しケガをするおそれがあります。転倒防止バーは、介助操作で段差を乗り越えるときなどの場合に限り格納した状態で使用してください。
また、バス・タクシー・電車などから降りたときも、必ず転倒防止バーが出ていることを確認してから走行してください。
- 大きな段差や障害物を上り下りする場合は、介助用操作部の電源を切って手で上り下りしてください。
電動操作で上り下りするとバランスを崩しやすく、転倒してケガをするおそれがあります。また段差の高さによっては、転倒防止バーを一時的に格納して乗り越えてください。乗り越えた後は、必ず転倒防止バーを元の位置に戻し、ロックできていることを確認してから使用してください。



- 大きな段差を無理に乗り越えようとししないでください。
段差の前でいったん停止してから正しい方法で乗り越えてください。決して勢いをつけて乗り越えないでください。また、フレームおよびキャストなどが破損して事故の原因となるおそれがあり大変危険です。
- 発進するときや小さな段差を乗り越えるときには、キャストが真っ直ぐになっていることを確認してから走行してください。
斜めに進入したり、キャストが斜めになった状態で発進すると段差を乗り越えられなくなったり、キャストが破損して事故の原因となるおそれがあり大変危険です。
- フットサポートに立ったり、直接体重をかけないでください。
フットサポートが破損したり、バランスをくずし、倒れるおそれがあります。



- 自走用操作部の操作レバーに物を掛けしないでください。
操作の邪魔になったり、掛けているものの重さで手を離しても操作レバーが戻らなくなることがあります。
また、輪ゴムを掛けていると、輪ゴムが自走用操作部の中に入り込み、操作レバーが戻らなくなることがあります。いずれの場合も車いすが止まらなくなるおそれがあります。
- 背折れジョイント部、ブレーキなどの操作レバーに荷物などを掛けしないでください。
- バックサポートを背折れしたまま使用しないでください。
後方へ転倒したり、背折れ金具でケガをするおそれがあります。

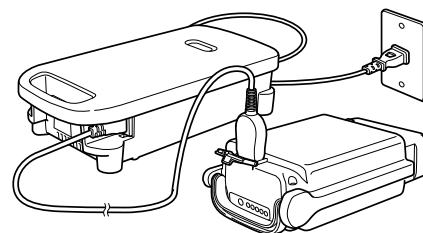




警告

【死亡または重傷を招く可能性があるもの】

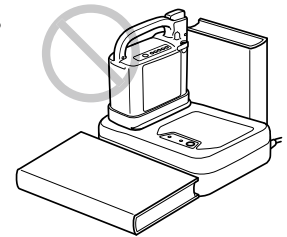
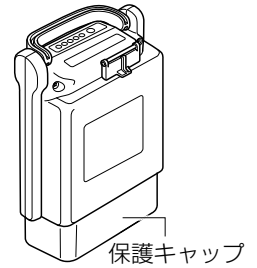
- 介助操作時に坂を下る場合は、後ろ向きで下りてください。
 - 傾斜地・坂道での走行は特に注意してください。
傾斜地や坂道では、車いすが予想外の方向に進む、スピードが出やすくなるなど大変危険です。
 - 傾斜のある場所や車いすが走行中にクラッチレバーを切り替えないでください。
車いすが不意に動き出したり、駆動輪にブレーキが掛かり、体が前方に投げ出されケガをするおそれがあります。
クラッチレバーを切り替える場合は、平坦な場所で駐車ブレーキを掛け、電源を切った状態で行ってください。
-
- 急な坂道での横断や斜め走行はしないでください。
バランスを崩しやすく転倒するおそれがあります。
 - 車いすでの走行中は、体を乗り出さないでください。
車いすが不安定になり危険です。
 - 体が前のめりにならないよう注意してください。
車いすに座ったまま前方の地面に置いてある物を拾うなど体を前のめりにすると、車いすから落ちたり、車いすごと転倒しケガをするおそれがあります。
 - 下記のような車いすに適さない服装で走行しないでください。
このような服装で運転すると、使用者や周囲の人がケガをするおそれがあります。
・丈の長いマフラー ・袖口の広い服 ・裾の広いズボン・スカート
・素足または下駄・サンダル履き、足にフィットしていない履き物など
 - バックサポート、アームサポート、スイングレバーを持たないでください。
車いすを持ち上げる場合は駐車ブレーキを掛け、固定されているパイプをしっかり支えてください。
持ち上げると車いすから外れるなど大変危険です。
 - 走行中に電源スイッチを切らないでください。
駆動輪にブレーキがかかり、使用者や周囲の人がケガをするおそれがあります。
 - 携帯電話などを使うときには、安全な場所に停止して車いすの電源を切ってください。また、電動走行中は携帯電話などの電源を切ってください。
事故の原因となるおそれがあります。
 - 車いすの乗り降りは、必ず電源を切ってから平坦な場所で行ってください。
電源が入っていると、体が操作レバーにあたって車いすが動き出し、使用者や周囲の人がケガをするおそれがあります。また、傾斜のある場所で車いすの乗り降りをする、バランスを崩しやすく車いすから落ちてケガをするおそれがあります。
 - 電源スイッチを入れた後にアームサポートを上げたり、上げた状態で電源スイッチを入れないでください。
また、上げた状態では絶対に走行しないでください。
操作レバーが倒れ、不意に車いすが動き出したとき、アームサポートで体を支えることができず、使用者がバランスを崩し転倒するおそれがあります。
 - 電源スイッチを入れた後に自走用操作部を格納したり、自走用操作部を回転させた状態で電源を入れないでください。また、自走用操作部を格納した状態では絶対に走行しないでください。
操作レバーが不意に倒れて車いすが動き出し、使用者や周囲の人がケガをするおそれがあります。
 - バッテリー残量不足のブザーが鳴ったときには、速やかに安全な場所に移動してください。
道路横断中など身動きが取れなくなるため大変危険です。
 - バッテリーや充電器はまちがった取り扱い方をすると、発熱・破裂や、感電、ケガの原因になります。必ず使用方法を守ってください。
 - バッテリーを専用充電器以外のもの充電したり、指定の車いす以外のものに使用しないでください。
 - バッテリーや充電器の分解や改造をしないでください。
 - バッテリーや充電器を火に近づけたり火の中に入れてしないでください。
 - バッテリーや充電器を水に入れたり、水をかけたりしないでください。
 - 走行中にバッテリーを抜かないでください。
駆動輪にブレーキがかかり、使用者や周囲の人がケガをするおそれがあります。
-



警告

【死亡または重傷を招く可能性があるもの】

- 取り外したバッテリーには必ず保護キャップをつけて保管してください。
接点部が露出しているとショートするおそれがあり、火災やバッテリー破裂の原因になります。
- バッテリーの+端子と-端子を針金などで接続したりしないでください。
また金属製品と一緒に持ち運んだり保管はしないでください。
+端子と-端子に手や物で触れたりしないでください。
- バッテリーや充電器を落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
バッテリーが壊れたり、発熱、破裂の原因となることがあります。
- 壊れたり傷んだりしたバッテリーは使用しないでください。
- 幼児やペットが近づくとともにバッテリーの保管や充電をしないでください。
- 充電器は不安定な場所で使用しないでください。また、使用後は電源プラグをコンセントに差したままにしないでください。
- 屋外や燃えやすいものの近くで充電器を使用しないでください。
- 傷んだコードは使用しないでください。
- 車いす側の差込口の中が汚れている状態や濡れている状態でバッテリーを差し込まないでください。
ショートするおそれがあり、火災やバッテリー破裂の原因になることがあります。
- 保管中に不用意に電源が入らないように、使用しないときには、必ずバッテリーを外しておいてください。
車いすを自動車などにのせるときも車いすからバッテリーを外してください。
- バッテリーや充電器が変形していたり、いつもはしない臭いがするなど、今までとは異なることに気がついたときには、バッテリーや充電器の使用を停止し当社まで連絡してください。
- ニッケル水素バッテリーの充電中は充電器の吸気口、排気口をふさがないでください。



注意

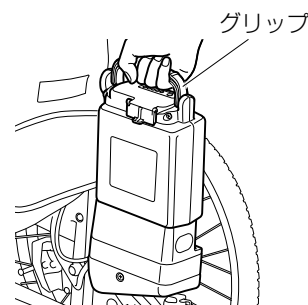
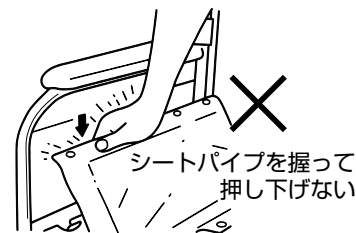
【軽傷または中程度の傷害を招く可能性があるもの】

- 使用する前には各部を点検してください。
車いすは“動くもの”ですから、長時間の使用により劣化が生じます。
使用前には必ず点検をし、異常が見つかったらただちに使用を中止してください。
- 車いすを投げたり落としたり、衝撃を加えないでください。
- 車いすをさかさまにしないでください。
さかさまにした場合、部品や車いすの一部が落ちるなどして、ケガや車いすの損傷の原因になります。
- 走行中は、足を必ずフットサポートの上に乗せてください。
足を地面に着けたままで走行したり、フットサポートから下ろして走行すると、フットサポートと地面の間に足が巻き込まれてケガをするおそれがあり大変危険です。
- 靴を履かずに足をフットサポートに乗せて使用する場合は十分注意してください。
壁や柱で足をケガしたり、足がフットサポートから落ちて骨折するなど、大変危険です。
- タイヤをもって車輪を操作しないでください。
駐車ブレーキで指を挟みケガをするおそれがあります。
- 安定した姿勢で座ってください。
座面シートに深く座ってください。
- 介助者は、使用者が車いすに安全に座れていることを確認してから操作してください。
使用者の体の一部または衣服がタイヤ、スポーク、キャストおよび地面、建物、通行者に触れたり挟まったりしないように注意してください。
- 車いすの乗り降りの際など車いすが不安定になりやすいときには、必ず2名以上の介助者が付き添ってください。

⚠ 注意

【軽傷または中程度の傷害を招く可能性があるもの】

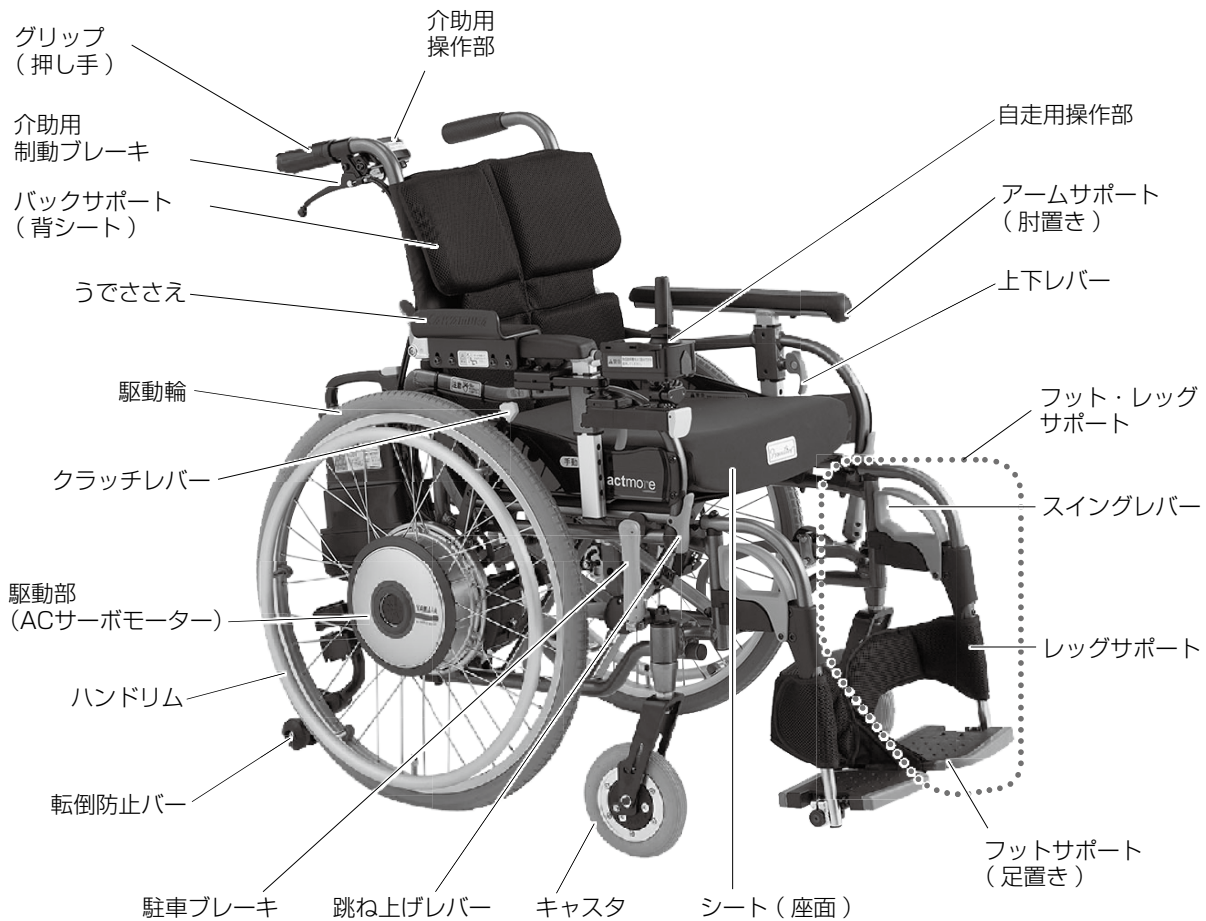
- 乗り降りの際には駐車ブレーキに体重をかけないでください。
ブレーキレバーが破損・変形し、転倒するおそれがあります。
- 車いすを開くときにシートパイプを握って押し下げないでください。
手や指を挟みケガをするおそれがあります。
- シートパイプがシート受けに収まっている事を確認して使用してください。
万が一、シート受けから浮いた状態で使用すると、フレームが歪んだり、故障の原因となり事故につながるおそれがあります。
- フットサポートは、屋内で使用する際は地上高さより3cm以上、屋外で使用する際は地上高さより5cm以上、上げた状態で使用してください。
低過ぎると路面の凹凸や障害物にフットサポートが当たり、転倒する危険があります。
- アームサポートを跳ね上げた状態から下げるとき、手や衣服を挟み込まないように注意してください。
- 駆動輪のスポークに指を差し込まないでください。
ケガをするおそれがあります。
- 後進時、人や物にぶつからないように注意してください。
- 電源を入れた状態では、バッテリーを交換しないでください。
接点部がこわれたり、車いすの故障の原因となります。
- 電源コードを引っ張って抜かないでください。
断線の原因になります。
- バッテリーや車いすを、高温になる場所や直射日光が当たる場所に置かないでください。
故障したり、バッテリーの劣化が早く進む原因になります。
- バッテリーのヒューズが切れた場合、ご自身で交換せず当社まで連絡してください。
ヒューズが切れた原因を取り除かずヒューズを交換すると、ふたたびヒューズが切れたり、本体ユニットが故障したりするおそれがあります。
- リチウムイオンバッテリーの着脱時はバッテリーのグリップで指を挟まないように注意してください。
指を挟みケガをするおそれがあります。



2 製品の特長

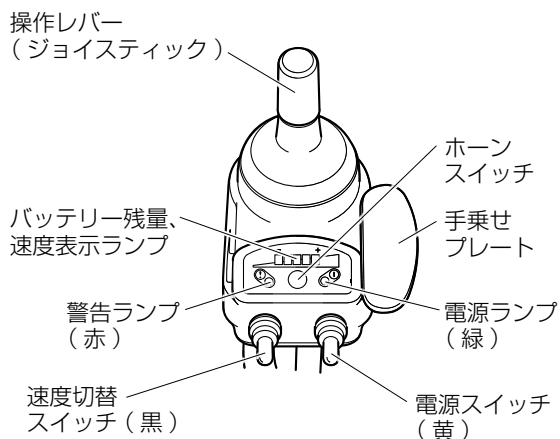
- レバー1つで小さな力でも思い通りの走行ができます。
- 電動と手動の切り替えが簡単にできます。
- 1回の充電で30km走行が可能なリチウムイオンバッテリーと、コンパクトながら15km走行が可能なニッケル水素バッテリーから選べます。
- 介助用操作部が標準装備なので、介助者の負担も軽減します。
- 調整機能が充実したセミモジュール車いすでお体に合わせた調整ができます。

3 各部の名称

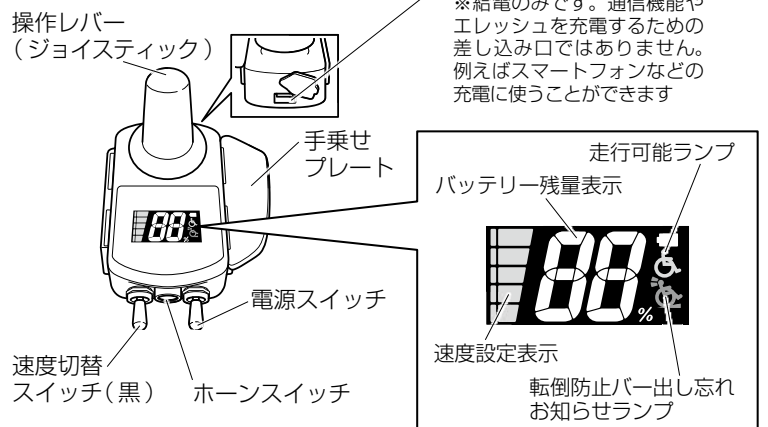


自走行用操作部

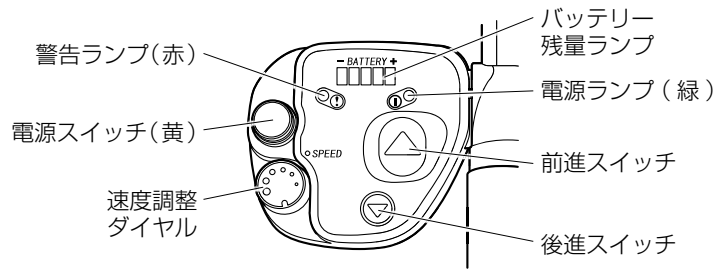
【旧仕様】



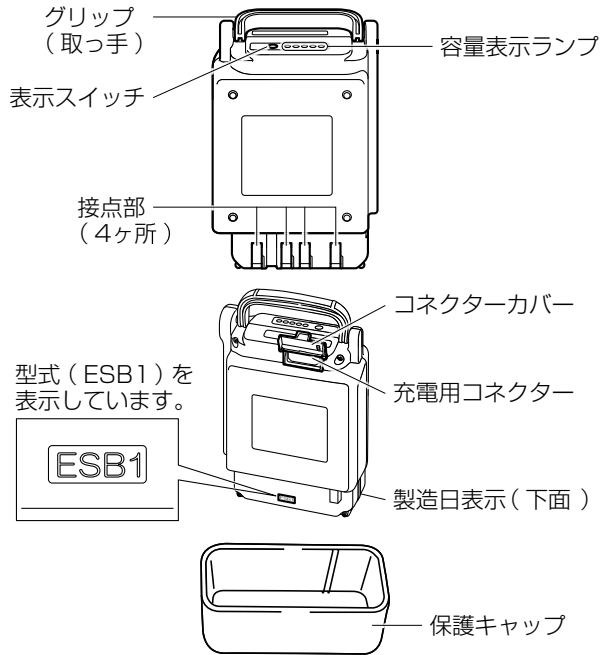
【新仕様】



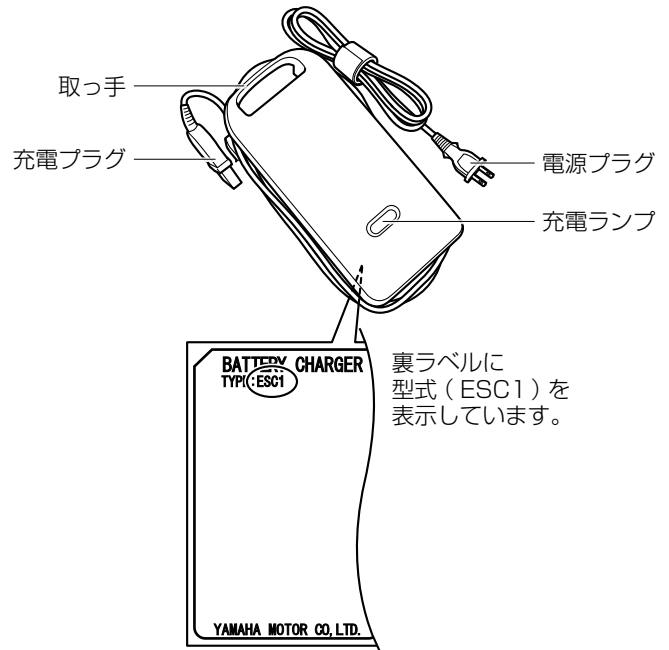
介助用操作部



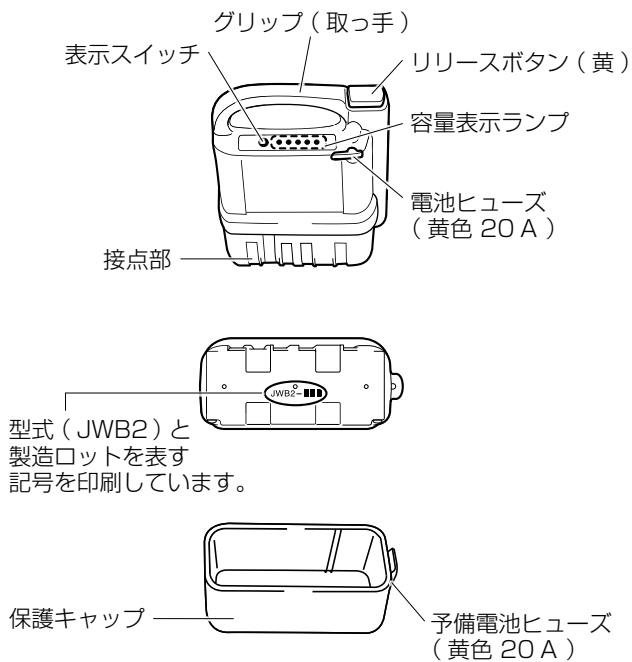
リチウムイオンバッテリー



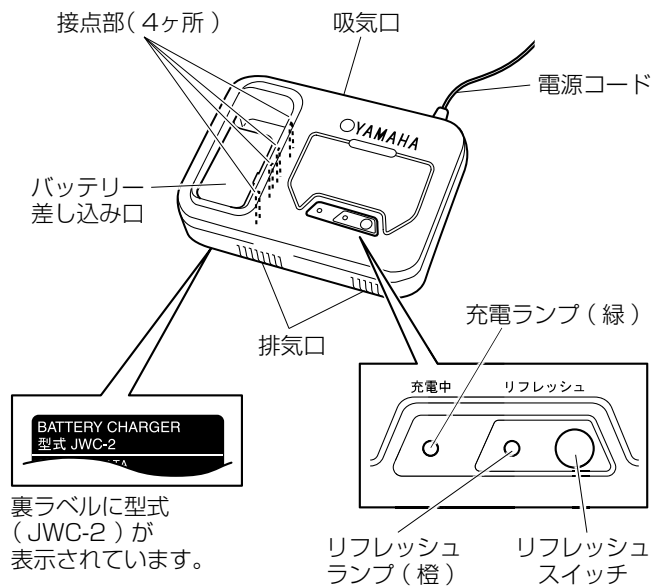
リチウムイオンバッテリー用充電器



ニッケル水素バッテリー



ニッケル水素バッテリー用充電器



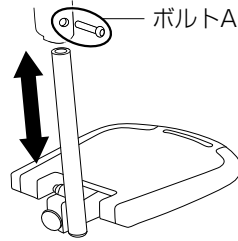
4 適合調整

1. フット・レッグサポートの調整のしかた

フットサポートの高さ調整

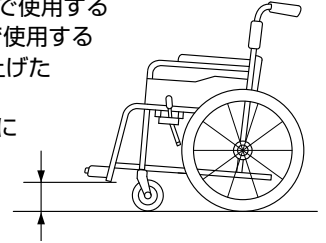
使用者の体に合わせて、フットサポートの高さを調整することができます。

- ① 固定しているボルトAをゆるめて外してください。
- ② 適当な高さに合わせて後、ボルトAを差し込み、締めて固定してください。



△注意

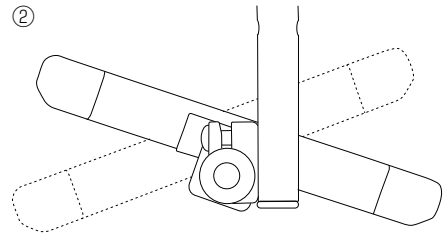
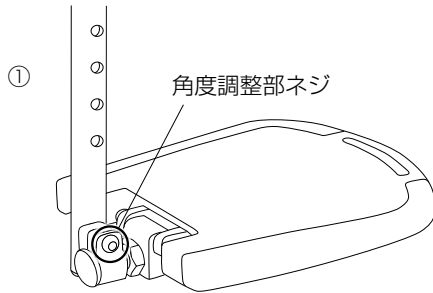
フットサポートの高さは、屋内で使用する際は地上高さより3cm、屋外で使用する際は地上高さより5cm以上、上げた状態で使用してください。低過ぎると路面の凹凸や障害物にフットサポートが当たり、転倒する危険があります。



フットサポートの角度調整

使用者の体に合わせて、フットサポートの角度を調整することができます。

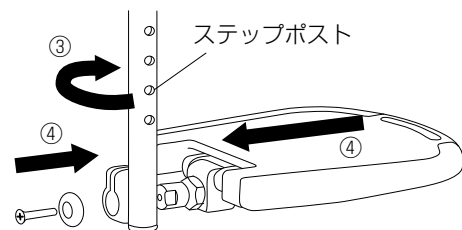
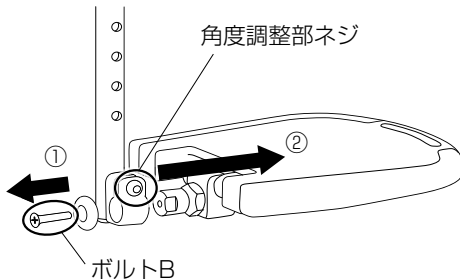
- ① フットサポートの角度調整部ネジをゆるめて適当な角度に合わせてください。
- ② 角度を合わせたら角度調整部ネジを締め、フットサポートを固定してください。固定した後、フットサポートを手で押さえて、角度が変わらないか確認してください。



フットサポートの前後調整

使用者の体に合わせて、フットサポートの前後の位置を調整することができます。

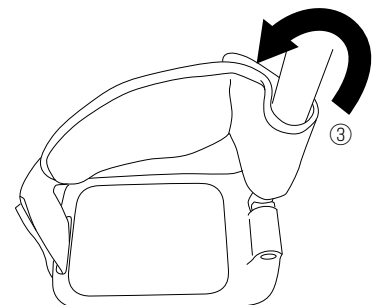
- ① 左右のフットサポートを固定しているボルトAをゆるめて外してください。
- ② フットサポートをパイプから抜いて左右入れ替えてください。
- ③ ステップポストを外し、前後を逆にしてフレームに固定してください。
- ④ フットサポートの高さを決めて、ボルトAを固定してください。（上記フットサポートの高さ調整参照）
- ④ 適当な角度で、フットサポートを固定してください。（上記フットサポートの角度調整参照）



レッグサポートの張り調整

使用者の体に合わせて、レッグサポートの張り調整をすることができます。

- ① 脚部に巻きつけてある面ファスナーを外してください。
 - ② 体に合わせ張り具合を調整します。
 - ③ しっかりと巻きつけて固定してください。
- ※ 面ファスナーを合わせ、必ずしっかりと固定してください



2. バックサポートの張り調整のしかた

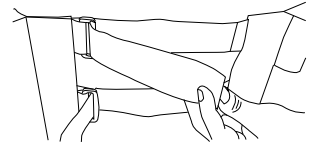
使用者の体に合わせバックサポートの張りを調整することができます。

[背ベルト6本仕様]

- ① 背クッションを取り外します。
- ② 調整ベルトの面ファスナーを外し、張り具合を調整します。
- ③ 背クッションを取り付けます。

[背ベルト8本仕様]

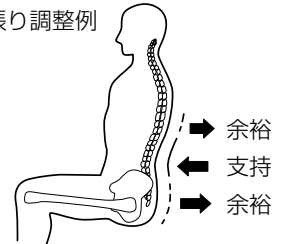
- ① 後ろ側から背クッションをめくり、調整ベルトの面ファスナーを外し、張り具合を調整します。
調整ベルトのタグをめやすく張り調整します
・オレンジ色：張りを締めるまたはゆるめて腰盤サポート
・グレー色：張りをゆるめて姿勢を微調整
- ② めくった背クッションを戻します。



△注意

- バックサポートの背ベルトをゆるめるときは、使用者の体をしっかりと支えながら行ってください。
- バックサポートを調整する際、強く張りすぎないように注意してください。
- 背クッションはポケットが付いている方が後ろ側です。表裏・前後の向きに注意してください。
- 面ファスナーに糸くず・汚れなどがついたときは取り除いてください。

張り調整例

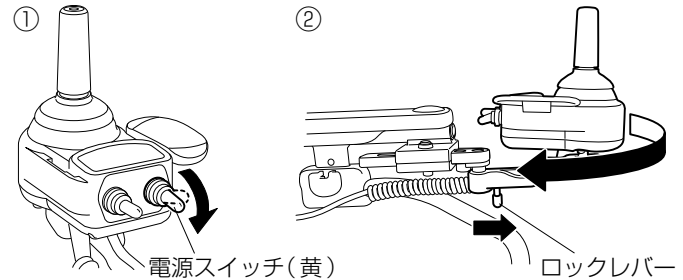


3. 自走用操作部の調整のしかた

自走用操作部の格納

テーブルや机に近づく場合などに格納することができます。

- ① 電源スイッチを切ります。
 - ② ロックレバーを前に押しながら自走用操作部を回転させ格納します。
- ※ 元に戻すには、逆の手順で行ってください。
必ずロックが効いているかを確認してください



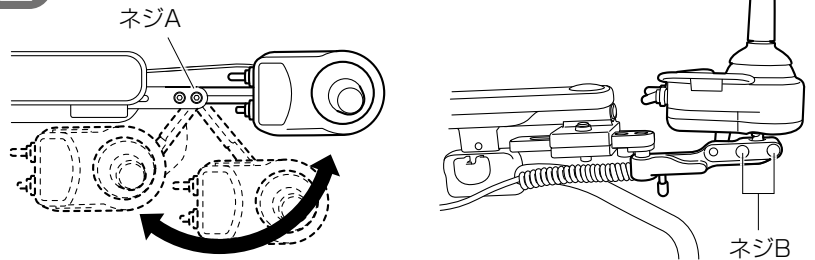
自走用操作部の取り付け位置の調整

体の状態に合わせて位置や角度、奥行きを調整することができます。

※ 調整する場合は当社へ連絡してください

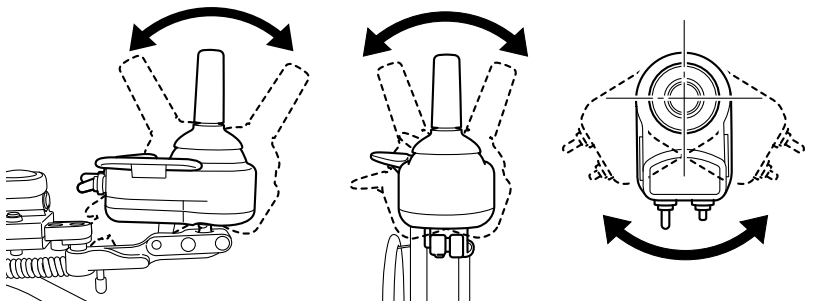
(1) 位置の調整

自走用操作部のネジAとネジBの2ヶ所をゆるめて位置を調整し固定してください。



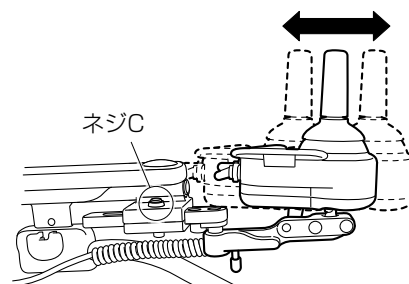
(2) 角度の調整

自走用操作部のネジB2ヶ所をゆるめて右図のように角度を調整し固定してください。



(3) 奥行き調整

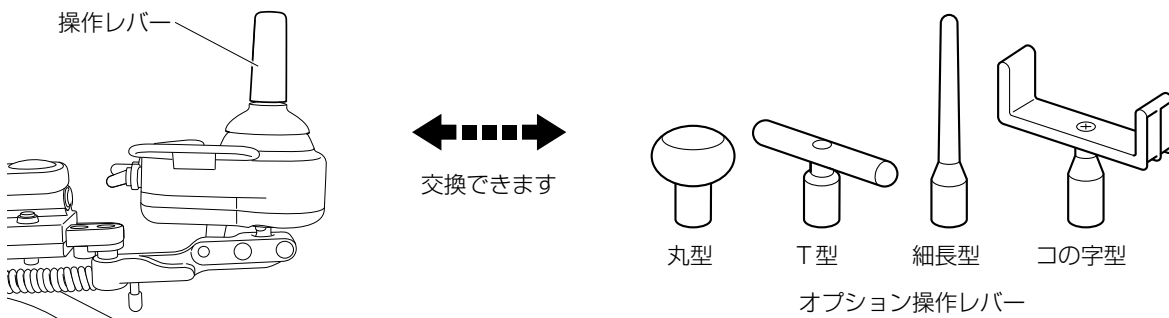
自走用操作部のネジCをゆるめて奥行きを調整し固定してください。



操作レバーの交換（オプション）

操作レバーを体の状態に合わせて交換することができます。

※ 操作レバーはオプション品です。交換する場合は当社まで連絡してください

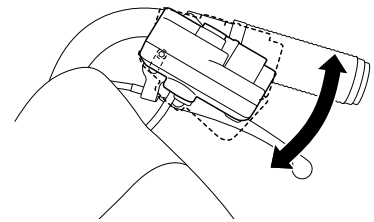


4. 介助用操作部の調整のしかた

介助者の体に合わせて介助用操作部の角度を調節することができます。

矢印の方向に角度調節が3段階できます。

※ 調整する場合は当社まで連絡してください



5. パラメータ設定

使いかたに合わせて機能や特性の設定を変更することができます。

この変更は「パラメータ設定」を変えることによって行います。

パラメータ設定には「機能パラメータ」と「走行パラメータ」の設定があります。

パラメータ設定の変更は当社に連絡してください。

(1) 機能パラメータ

① オートパワーオフ機能

一定時間操作しない場合に電源が切れる機能です。

初期設定 …… 操作レバーを10分間操作しないと電源が切れます

設定1 …… 操作レバーを60分間操作しないと電源が切れます

設定2 …… 自動的に電源が切れません

② ブザー音

電源を入れたときや、クラッチ抜けの異常があったときにブザーを鳴らす機能です。

初期設定 …… ブザー音が鳴ります

設定1 …… 電源を入れたとき、速度を調整したとき、クラッチレバーが手動側の状態で操作したときなどの警告音が鳴りません

ホーンや異常時の警告音は鳴らないようにすることはできません

③ 電磁ブレーキタイミング

車いすが停止してから電磁ブレーキが掛かるまでのタイミングを調整する機能です。

初期設定 …… 停止してすぐに電磁ブレーキが掛かります

設定1 …… 停止してから10秒後に電磁ブレーキが掛かります

(2) 走行パラメータ

速度や加速度、操作レバーの感度などを決める機能です。

① プリセットモード

あらかじめ設定した3つのモードからひとつを選べます。

初期設定 …… 標準モード

設定1 …… ソフトモード

設定2 …… スポーツモード

② フリーモード

速度、加速度、操作レバーの感度などをさらに細かく設定することができます。

5 使用前の準備と点検

1. 車いすの点検

点検して異常が見つかったときには当社に連絡してください。

① 介助用制動ブレーキ

- 介助用制動ブレーキを握り、ブレーキが効くこと。
- ブレーキケーブルがたわんでいないこと。

② 転倒防止バー

- 転倒防止バーが変形したり、大きな傷がついていたりしないこと。転倒防止バーが出ていること。
- 転倒防止バーを左右にふっても、ロックされて動かないこと。

③ 駆動輪

- タイヤ溝があること。
- タイヤ表面に亀裂が入っていないこと。
- タイヤに空気が入っていること。

④ 駐車ブレーキ

- 駐車ブレーキが駆動輪をロックすること。
- 両輪ともブレーキを掛けた状態で車いすを押したときタイヤが動かないこと。
- 駐車ブレーキの取り付けにガタつきがないこと。

⑤ フットサポートの高さ

- フットサポートは、地上高さより5cm以上、上げた状態で使用してください。

⑥ ホイール、スポーク、ハンドリム

- ホイールやハンドリムに変形や傷がないこと。
- ホイールやフレームとの取り付け部にガタつきがないこと。
- スポークが折れていないこと。

⑦ キャスタ

- キャスタのネジがゆるんでいないこと。
- キャスタに溝があること。
- キャスタに傷がないこと。
- キャスタフォークに亀裂がないこと。

⑧ 駆動輪のゆるみ

- 駆動輪にガタつきがないこと。

⑨ 自走用操作部

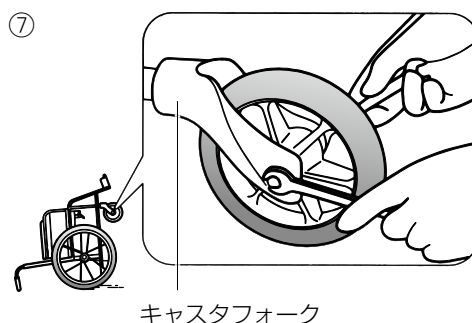
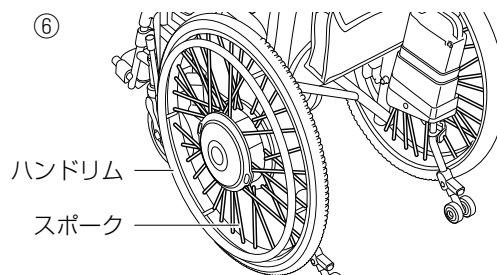
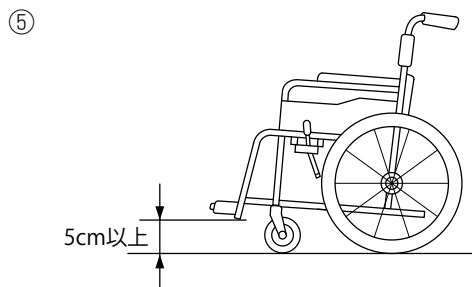
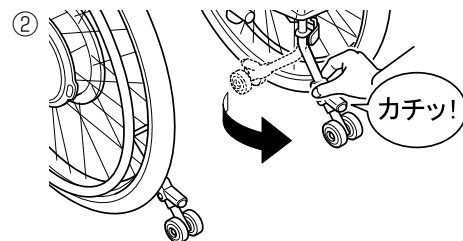
- 自走用操作部が車いすにしっかり固定されていること。
- 操作レバーが扱いやすい位置にあること。

⑩ 介助用操作部

- 介助用操作部が車いすにしっかり固定されていること。
- 操作ボタンが扱いやすい位置にあること。

⑪ 全体の確認

- ガタつきがないこと。
- まっすぐに走ること。
- 背折れ金具がしっかりと固定されていること。
- ワイヤーが部品などに引っかかっていないこと。



2. 服装のチェック

服装が車いすの走行に適したものかどうかを確認します。

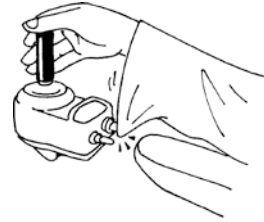
△注意

下記のような車いすに適さない服装で走行しないでください。
このような服装で運転すると使用者や周囲の人がケガをするおそれがあります。

丈の長いマフラー



袖口の広い服



裾の広いズボン・スカート

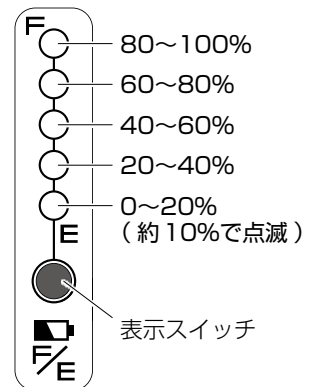


素足または下駄・サンダル履き、足にフィットしていない履き物など



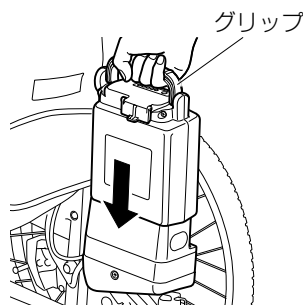
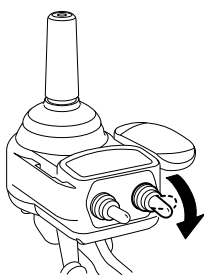
3. バッテリーの残量確認と取り付けかた

- (1) バッテリーの表示スイッチを押してバッテリー残量を確認します。
容量表示ランプにバッテリー残量が示されます。残量がない場合には、充電方法にしたがってバッテリーを充電してください。
- (2) 接点部が汚れていないかを確認します。
接点部が汚れていると、車いすが動かなくなるおそれがあります。
- (3) バッテリーを車いすに取り付けます。

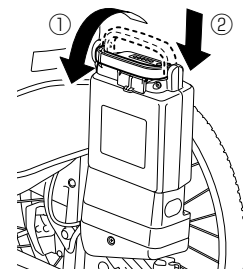


リチウムイオンバッテリーの取り付けかた

電源スイッチを切ります。 バッテリーを差し込みます。

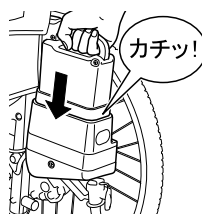
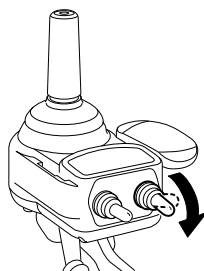


- ① グリップを横に倒します。
 - ② バッテリーをしっかり押し込みます。
- ※グリップで指を挟まないよう注意してください



ニッケル水素バッテリーの取り付けかた

電源スイッチを切ります。 バッテリーを「カチッ」と止まるまで差し込みます。



6 走行診断チェック

1. 使用者のかたへ

使用者の身体状況によっては、ひとりで走行することが危険な場合があります。
この診断チェックを利用していただき、ひとりで走行できるかどうかの判断の目安にしてください。

チェック 1



(1) 自走用操作部のノブやスイッチを自分の意思どおりに動かすことができますか？



(2) 周囲の状況を正しく理解し走行すべきか気にかけることができますか？

両方とも
できる

いずれかに
不安がある

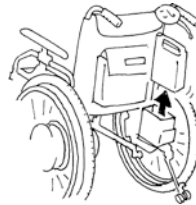


介助者に介助操作を
してもらってください。

チェック 2



(1) 駐車ブレーキやクラッチレバーの操作ができますか？



(2) 車いすの乗り降りやバッテリー交換ができますか？

両方とも
できる

いずれかに
不安がある



介助者に同行して
もらってください。

ひとりで走行することは可能です。安全のために慎重な走行を心掛けてください。P19「7. 外出時の注意点」にあるような場所では必ず介助者に同行してもらい、安全に十分配慮して走行してください。

2. 介助者のかたへ

下記診断チェックを利用していただき、介助操作ができるかどうかの判断の目安にしてください。

診断チェック

下記3項目のうち、いずれかに不安があるときには、介助操作はしないでください。

- (1) 路面や周囲の状況を正しく理解し、危険な場所を避けることができますか？
- (2) 車いすの乗り降り補助やバッテリー交換ができますか？
- (3) 手動車いすで介助の操作ができますか？



7 基本操作の練習

基本操作 1

平坦な広い場所で基本操作の練習を行ってください。

- ① はじめに最高速度を低速に調整してから操作レバーの使い方を覚えてください。
- ・進みたい方向に操作レバーを倒します。
 - ・ゆっくり走るときは浅めに操作レバーを倒します。
 - ・速く走るときは深めに操作レバーを倒します。
 - ・停止するには、操作レバーをもとの位置に戻してください。
操作レバーは、ゆっくりと動かしてください。



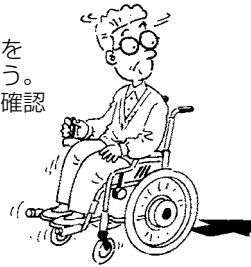
② 操作レバーの操作感覚を覚えたら以下のような走り方をしてみましょう。

■ 前進・停止



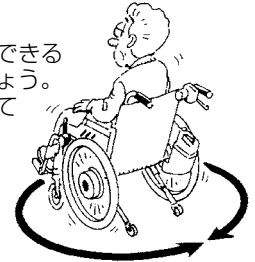
■ 後進

- ・後進時の特性を理解しましょう。
- ・後ろの安全を確認しましょう。



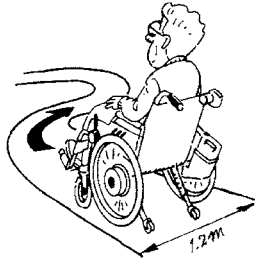
■ 旋回

- ・狭い場所で旋回できるようにしましょう。
- ・左右方向に回ってみましょう。



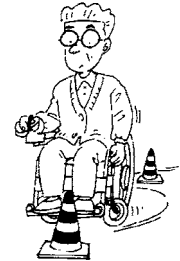
■ S字クランク走行

- ・思いどおりのコースを通れるようになりましょう。
- ・速度と方向変換のタイミングを覚えましょう。



■ 障害物回避

- ・回避動作ができるようになりましょう。
- ・障害物にぶつからないように停止してみましょう。



③ 最高速度を中速、高速に調整して同じ練習を行ってください。

基本操作 2

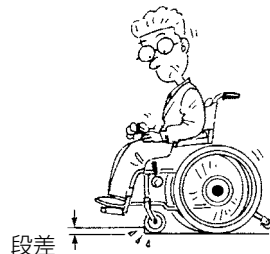
実際に車いすを使う場所で練習を行ってください。

① 歩道

- ・歩行者や障害物にぶつからないようにしましょう。
- ・路面に応じた走行を覚えましょう。

② 段差の上り下り

- ・転倒防止バーが出ていることを確認しましょう。
- ・段差の高さが2.5cm以下であることを確認しましょう。
- ・段差に対して直角に通過できるように進みましょう。
- ・手前でいったん停止し、慎重に進みましょう。



③ 横断歩道

- ・余裕をもって横断歩道を渡りましょう。
- ・車道/歩道の段差に注意しましょう。

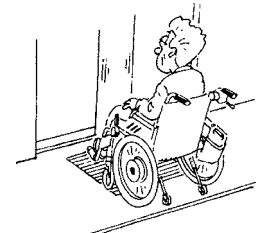
④ 坂道

- ・上り下りの感触を覚えましょう。
- ・上り坂での再発進は慎重にしましょう。



⑤ 自動ドア

- ・定位置でいったん停止する練習をしましょう。



△ 注意

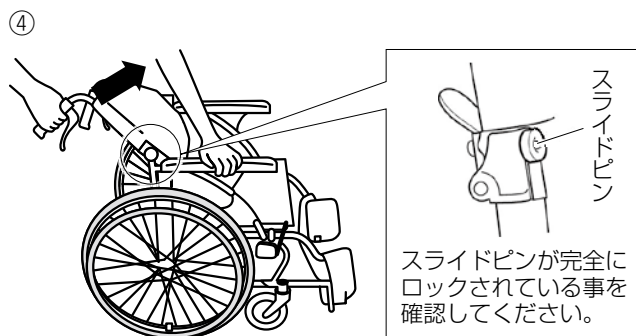
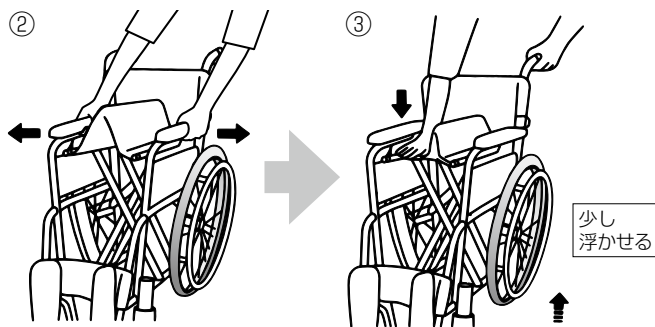
日常、車いすをよく使う場所の路面を必ず確認してください。

大きな段差、急な坂道、荒れた路面など危険な場所を通らないルートを走行するようにしてください。

8 ご使用方法

1. 開きかた

- ① 駐車ブレーキを両輪に掛けてください。
 - ② 左右のアームサポートを持って両側に軽く広げてください。
 - ③ 片方のフレームを持ち上げて車輪を少し浮かせ、シートパイプ部分を上から手で押し下げてください。
 - ④ バックサポートを起こします。車いすの押し手部分を持ち、上方（矢印の方向）へ引き起こすように持ち上げてください。
- ※ このとき、片側の手で車いすが動かないように支えてください



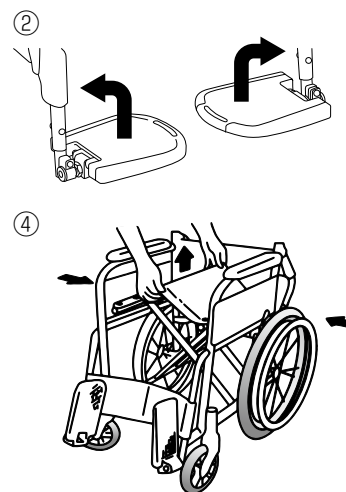
△ 注意

シートパイプを握って開いたり、背折れジョイント部に手や指を置いて引き起こしたりしないでください。
挟まってケガをするおそれがあります。



2. たたみかた

- ① 駐車ブレーキを両輪に掛けてください。
- ② フットサポートをたたむように上方（矢印の方向）へ跳ね上げます。
- ③ バックサポートを折りたたみます。グリップを握り、一方の手で背折れジョイント部のレバーを後方へ引きながらグリップを倒します。また、反対側も同様に倒してください。
- ④ 座面シートの中央部を持ち上げ車いすを折りたたんでください。

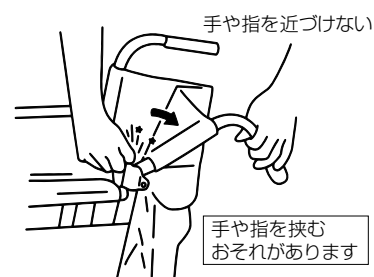


△ 警告

車いすから降りるとき、絶対にフットサポートの上に乗らないでください。

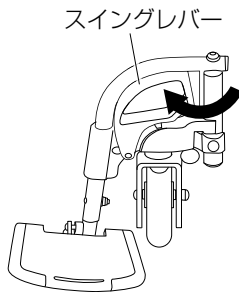
△ 注意

- バックサポートをたたむときは、バッテリーを取り外してください。電源スイッチ部がバッテリーに当たり、破損の原因となります。
- 折りたたむとき、手や指を挟まないよう注意してください。
- 折りたたむとき、グリップを持って左右から押し縮めないでください。フレームが破損する原因となります。

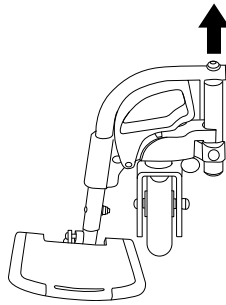


3. フット・レッグサポートのスイングアウト・着脱

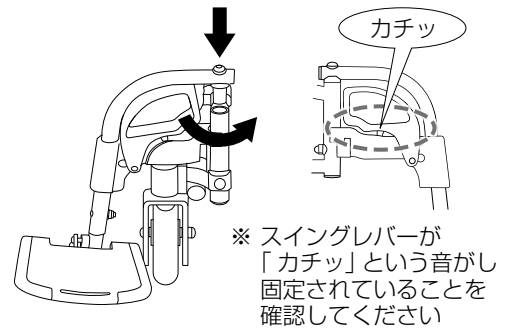
① スイングレバーを握りながら、フット・レッグサポートを外側に回します。



② スイングアウトした状態から、フット・レッグサポートを垂直に持ち上げます。



③ フット・レッグサポートを差し込み、内側に回します。



⚠ 警告

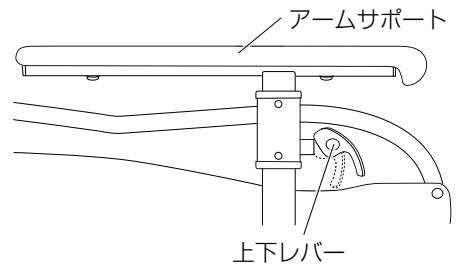
- スイングアウトや脱着の操作をする際には、フット・レッグサポートや金具などで手や衣服を挟まないように注意してください。
- スイングアウトや脱着の操作をする際には、必ず駐車ブレーキが掛かっていることを確認してください。急に車いすが動き、事故の原因となります。

4. アームサポートの使いかた

アームサポートの高さ調整

アームサポートの高さを6段階(22~32cm)で調整できます。

- ① 上下レバーを持ち上げます。
 - ② 上下レバーを持ち上げたまま、アームサポートを持って上下させます。
 - ③ 高さが決まったら上下レバーを下げます。
- ※ 上下レバーのピンがしっかりと収まっていることを確認してください

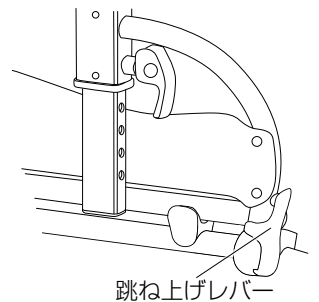


跳ね上げるとき

跳ね上げレバーを押しながら、アームサポートを持ち上げてください。

取り付けるとき

跳ね上げレバーが固定される位置まで、アームサポートを下ろしてください。



⚠ 警告

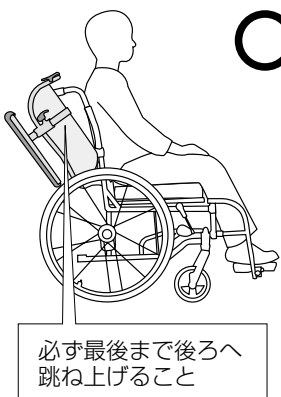
アームサポートの跳ね上げ・取り付けは、必ず駐車ブレーキを掛けた状態で行ってください。車いすが動き出し、大変危険です。

⚠ 注意

- アームサポートを跳ね上げたままの状態で使用しないでください。転倒など、思わぬ事故の原因となります。
- アームサポートに腕を置いたまま、アームサポートを跳ね上げないでください。
- アームサポートを跳ね上げたり、戻す際には、フレームとのすき間や車輪とのすき間、駐車ブレーキとのすき間、跳ね上げ金具などで手や衣服を挟まないように注意してください。
- アームサポートの跳ね上げは、必ず最後まで後ろに跳ね上げてください。
- ベッドなどに移乗する際は、跳ね上げたアームサポートに体が接触したり衣服が引っかからないよう注意してください。

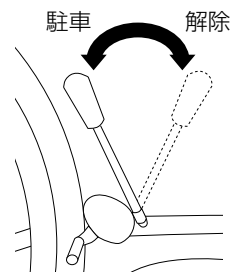
～正しい跳ね上げかた～

～注意が必要なアームサポートの跳ね上げ使用例～



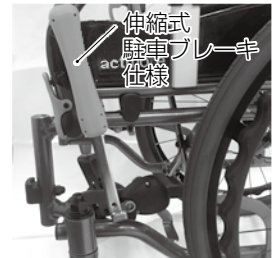
5. 駐車ブレーキの掛けかた

- ブレーキレバーを後方に引くとロックし、レバーを前方に倒すと解除されます。
- ブレーキレバーの長さを伸ばして使用したい場合は、オプションの延長ブレーキを取り付けてください。伸縮式駐車ブレーキ仕様の場合はレバーを引っ張り延長させてください。
アームサポート（肘置き）を跳ね上げて座位置移動をするときなど、伸縮式駐車用ブレーキ仕様の場合は延長したレバーは元に戻してから行ってください。



△ 注意

- 車いすに乗り降りする際、一時停止する際は、必ず駐車ブレーキを掛けて車いすが固定されていることを確認してください。
- 傾斜地や平坦でないところでは駐車しないください。
傾斜地やすべりやすい床面では駐車ブレーキを掛けても車いすが動く場合があります大変危険です。
- 駐車ブレーキのレバーは作動方向以外に力を加えないください。
必要以上に力を加えないください。ブレーキが変形・破損するおそれがあります。
- 駐車ブレーキは必ず手で操作してください。
足などで操作するとブレーキが破損するおそれがあります。
- 座位移乗をする場合、移乗側にオプションの延長ブレーキは付けしないでください。



6. 移乗のしかた

移乗動作の準備をしてください。

- ① 駐車ブレーキを両輪に掛けてください。
- ② フットサポートを両方とも上げます。
- ③ 乗り移る側のアームサポートを跳ね上げ、フット・レッグサポートをスイングアウトします。

使用者の身体状況によって、移乗方法が異なります。下記の方法を参考に正しい移乗方法で行ってください。

1人で車いすに乗り移るとき

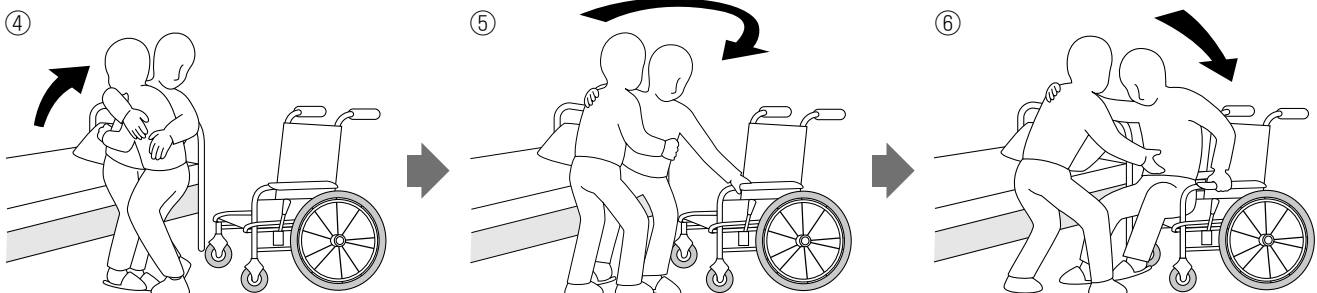
※車いすから降りるときは逆の要領で行ってください

- ④ 車いすをしっかりと保持し、腰を浮かせゆっくり乗り移ります。
- ⑤ アームサポート、フット・レッグサポートを元に戻し、固定していることを確認してください。
- ⑥ フットサポートを下ろして両足をのせます。

介助者と車いすに乗り移るとき

※車いすから降りるときは逆の要領で行ってください

- ④ 介助者が片足を相手のひざの間に差し込んで、腰を支えながら立ち上がらせませす。
- ⑤ 介助者のひざで相手を支えながら、車いすの方へおしりを向けませす。
- ⑥ ゆっくりと腰を下ろしてもらいませす。
- ⑦ アームサポート、フット・レッグサポートを元に戻し、固定していることを確認してください。
- ⑧ フットサポートを下ろして両足をのせます。



△ 警告

- 車いすが動き出し大変危険ですので、必ず駐車ブレーキを掛けてください。
- 危険ですのでフットサポートの上に乗らないください。

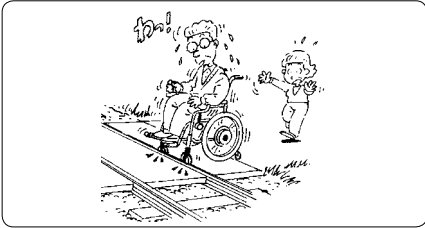
△ 注意

アームサポートやフット・レッグサポートに戻すときは、衣服や手を挟み込まないように注意してください。

7. 外出時の注意点

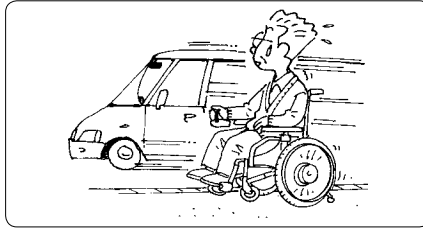
- お使いいただく環境や場所によっては、介助者の同行や操作が必要な場合があります。次のような場合では、介助者が同行してください。単独走行では、ケガをするおそれがあります。
- また、日常よく使う場所に次のような危険があるかどうかを確認して、もし危険がある場合には、このような箇所を通らないルートを選ぶようにしてください。
- 緊急時は、介助者がクラッチレバーを手動側にして安全な場所に移動させてください。

踏切や路面電車の線路を渡るとき



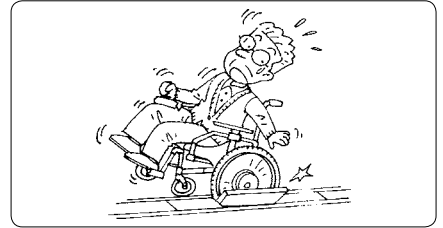
線路のすき間にキャストがはまるおそれがあります。

柵がない歩道



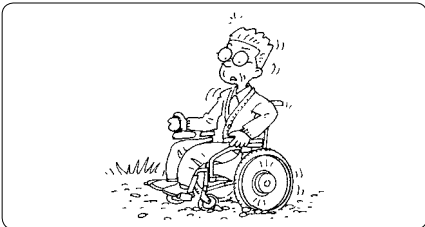
車道側に落ちるおそれがあります。

側溝や下水溝のフタ



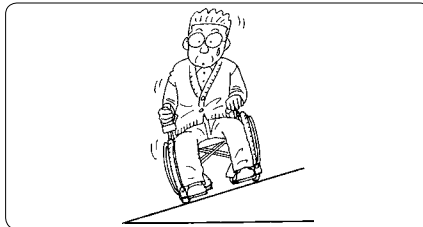
すき間がある場合、タイヤが落ちるおそれがあります。

砂利道や泥道



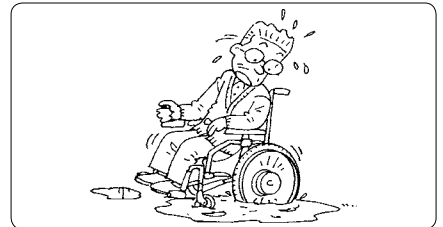
タイヤが埋まり、身動きがとれなくなるおそれがあります。

車体が左右に大きく傾く場所



横に倒れるおそれがあります。

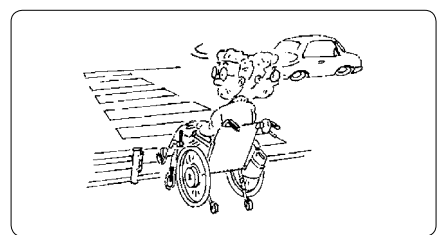
雪・水溜りのある道路



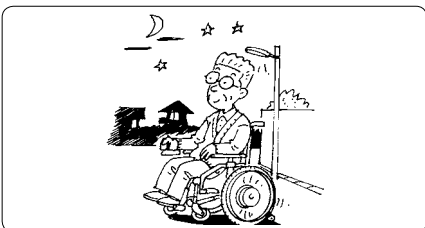
スリップしてコントロールができなくなったり、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。駆動部が水に浸かると停止するおそれがあります。

不慣れた道路の横断

- 特に信号機のない横断歩道では、交通状況に十分注意して渡ってください。
- 信号機のある横断歩道でも、広い道路では横断中に信号が変わるおそれがあります。このような場所では、信号が次の青になるまで待って、余裕を持って渡るようにしてください。
- 狭い車道を走ることは大変危険です。できるだけ安全な道を選んでください。
- バッテリー残量が少ない場合は、横断中にバッテリー切れになり動かなくなるおそれがあります。横断前にバッテリー残量を確認してください。

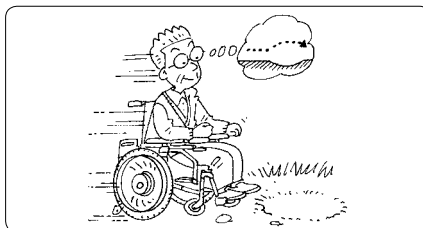


夜間の走行



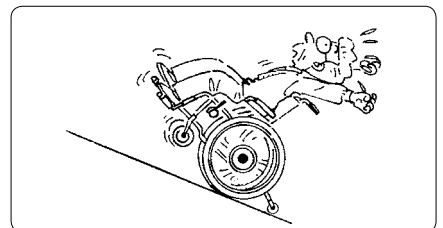
路面状態がわからず転倒したり、周りの人や車から認識されずに人や車と衝突するおそれがあります。

大きなくぼみを越えるとき



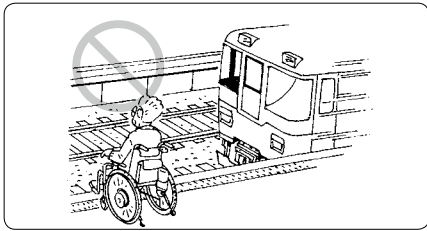
道路にくぼみがある場合は回避してください。そのまま走行すると転倒するおそれがあります。

不慣れた坂道の上下



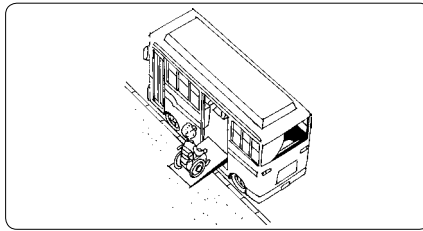
初めて上下りする坂では、介助者が同行し安全を確認してください。

駅のプラットフォーム



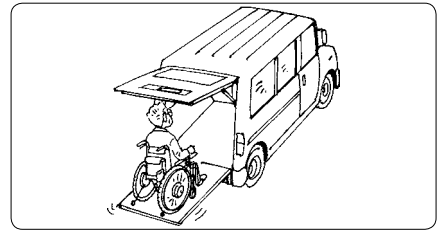
線路に転落するおそれがあります。

バス・電車の乗降



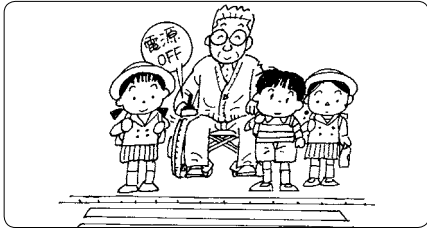
降りたときは必ず転倒防止バーが出ていることを確認してください。

リフト付車両への乗降



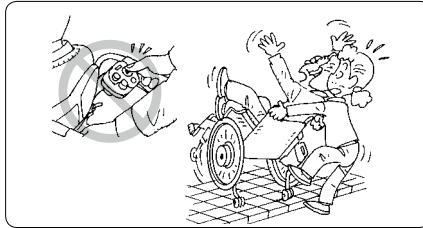
必ず介助者が同行し安全を確認してください。

混雑した場所での移乗



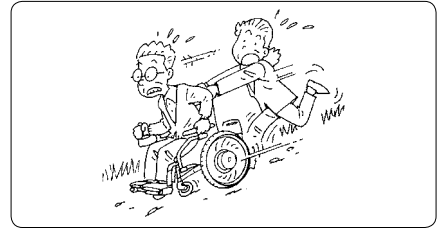
人や物にぶつかるおそれがあります。まわりの人の手や腕が操作レバーに接触して不意に発進するおそれがあります。

大きな段差や障害物の上り下り



電動操作で上り下りするとバランスを崩しやすく、転倒するおそれがあります。

坂道や段差の下り



前進で下りると乗っている使用者が前のめりになり車いすから落ちるおそれがあります。

8. 航空機に乗るとき

航空機に乗ることが決まったら、電動車いすを使用することを事前に航空会社に連絡し、航空会社の指示に従ってください。このときにご使用の車いすについて詳しく航空会社に知らせてください。特に使用するバッテリーについては、以下の仕様を参照してください。

■ リチウムイオンバッテリー (ラベルにLi-ion 00と表示)

型式 ESB1 電圧 25V
容量 11.2Ah (280Wh)
種類 マイコン内蔵乾式密閉型 (ドライタイプ)

■ ニッケル水素バッテリー (ラベルにNi-MHと表示)

型式 JWB2 電圧 24V
容量 6.7Ah
種類 マイコン内蔵乾式密閉型 (ドライタイプ)

バッテリー (特にリチウムイオンバッテリー) は、航空機への機内持込・荷物としての預け入れが制限されることがあります。必ず事前に航空会社へ相談してください。

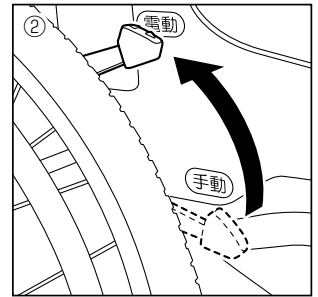
※ 旅行などの一時的な場合も含め、本製品を海外で使用する場合は、サービスサポートの対象外とさせていただきます

9 電動部の操作方法

1. 車いすに座る

【旧仕様・新仕様共通】

- ① 車いすを平坦な場所に置き、電源スイッチ（黄）を切ります。
- ② クラッチレバーを電動側にします。
電動 …… 電動走行ができます。走行していない時はブレーキが掛かります。通常はこの状態で使用してください。
手動 …… ブレーキが解除され、介助者が手で押して移動することができます。
- ③ 駐車ブレーキを両輪に掛けてください。
- ④ 車いすに乗り移り、車いすから落ちないようにしっかり座ります。

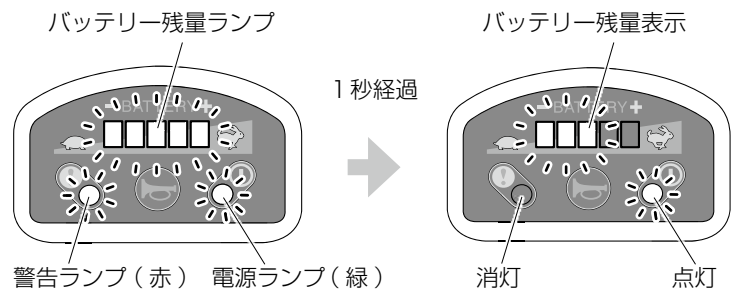


- 車いすに乗り移るときやテーブルを使用するときなど自走行操作部が邪魔になる場合には、ロックレバーを前に押しと自走行操作部を格納することができます。
- アームサポートを跳ね上げると、腰を大きく上げることなく車いすに乗り移ることができます。

2. 車いすを動かす

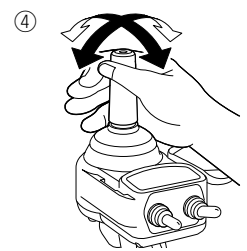
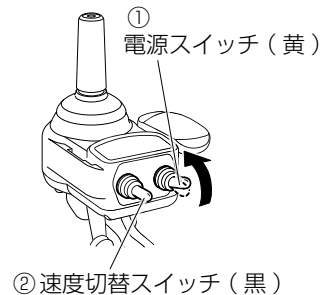
【旧仕様】

- ① 電源スイッチ（黄）を入れます。
電源を入れると、はじめに自走行操作部のランプが全て点灯し、1秒後に警告ランプ（赤）が消え、バッテリー残量ランプがバッテリー残量を示す表示になります。



● : 消灯 ☉ : 点灯 ☉ : 点滅

- ② 必要な場合は速度の調整をします。
調整方法は、次項を参照してください。
- ③ 駐車ブレーキを解除します。
- ④ 操作レバーを移動したい方向に倒すと走り出します。
最初に操作レバーを前後左右に少しだけ倒して車いすが正しく動くことを確認してください。
はじめての方は、P15を参照して、慣れるまで基本操作の練習をしてください。



【新仕様】

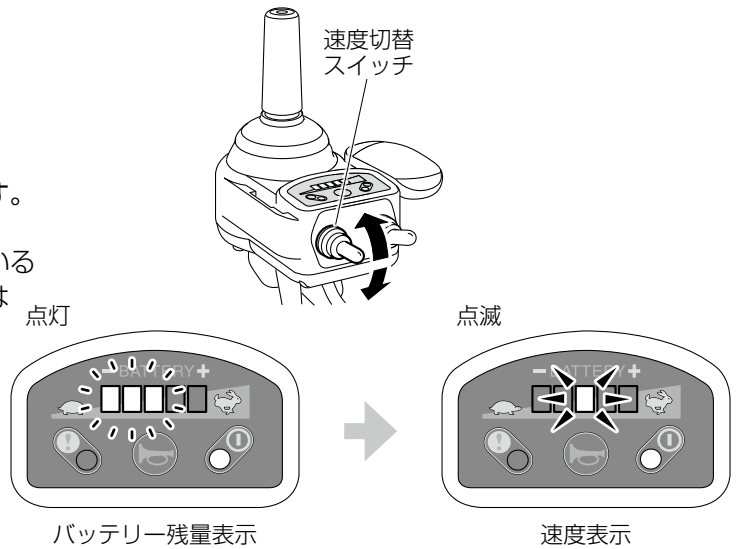
- ① 電源スイッチ（黄）を入れます。
電源を入れると、液晶画面の表示が点灯します。
以降の手順は、旧仕様の②～④と共通です。

3. 自走用操作部の速度調整・確認方法

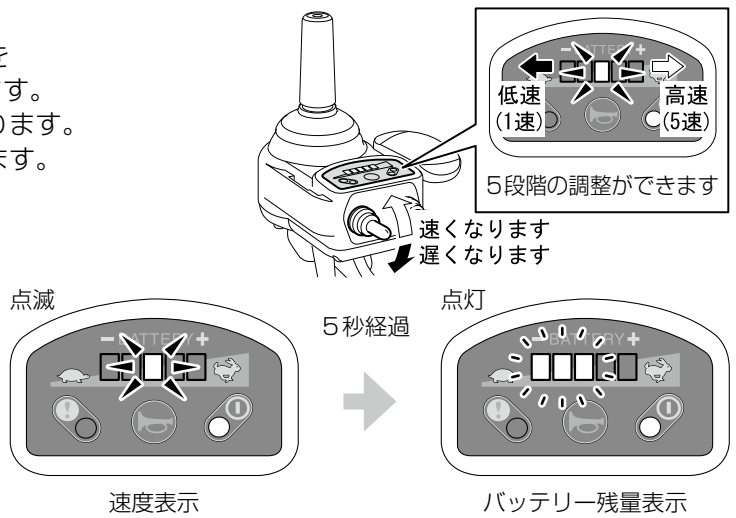
速度切替スイッチで速度の調整や確認ができます。
上げると速く、下げると遅くすることができます。
速度の調整は次の手順で行ってください。

【旧仕様】

- ① 速度切替スイッチを上か下に一度だけ動かします。
表示ランプがひとつだけ点滅します。
点滅しているランプの位置が、現在設定されている速度を示しています。ランプが点滅している間は速度の調整ができます。
調整が不要の場合は、そのまま5秒たつとバッテリー残量表示に戻ります。



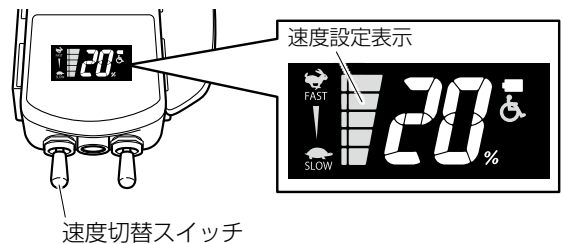
- ② 速度切替スイッチを動かし速度を変更します。
表示ランプが点滅した状態で速度切替スイッチを1回上げると、ランプが高速側へ1段階上がります。
上げ続けると、連続してランプが高速側へ上がります。
速度を下げる場合は逆方向に同様の手順で行います。



- ③ 設定したい速度のランプが点滅している状態でスイッチから手を離します。
速度変更後5秒たつと、速度表示からバッテリー残量表示に変わり、設定が完了します。

【新仕様】

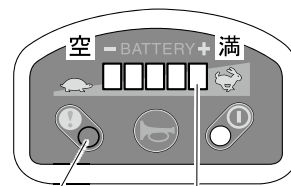
- 速度切替スイッチを動かし速度を変更します。
新仕様の液晶画面では常時、速度を確認することができます。
速度切替スイッチを1回上げると、速度設定表示が高速側へ1段階上がります。
上げ続けると、連続して表示が高速側へ上がります。
速度を下げる場合は、逆方向に同様の手順で行います。



4. 走行中のバッテリー残量確認

【旧仕様】

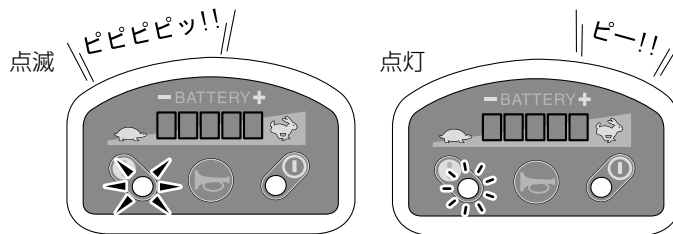
走行中は、自走用操作部のバッテリー残量表示ランプや警告ランプでいつでもバッテリー残量を確認することができます。



警告ランプ

バッテリー残量表示ランプ

- バッテリー残量が約10%以下になると、警告ランプが点滅し、ブザーが『ピピピピッ』と短く4回鳴ります。
- バッテリーがなくなると警告ランプが点灯しブザーが『ピー』と長く1回鳴り、車いすは停止します。



● : 消灯 ☉ : 点灯 ☀ : 点滅

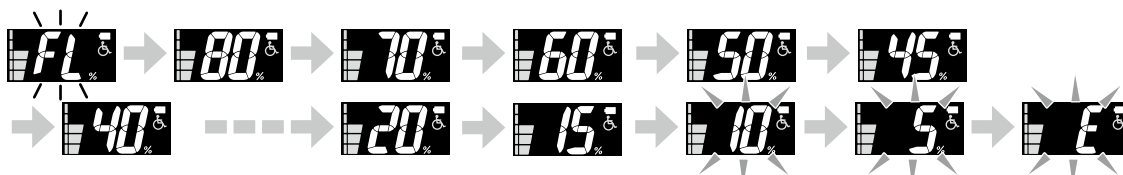
【新仕様】

走行中は液晶画面でいつでもバッテリー残量を確認することができます。

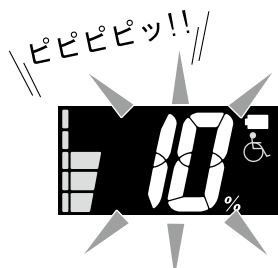
- 液晶画面にバッテリーの残量は20%刻みで表示します。20%以降は10%刻みとなります。



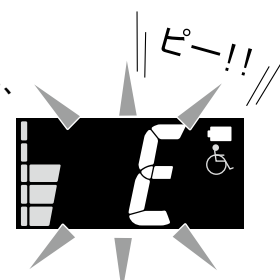
- リチウムイオンバッテリー（黒）のみ残量の表示が異なります。残量は80%～50%まで10%刻み、50%からは5%刻みで表示します。



- 残量が約10%以下になると、残量表示が「10%」となり点滅し、ブザーが『ピピピピッ』となります。



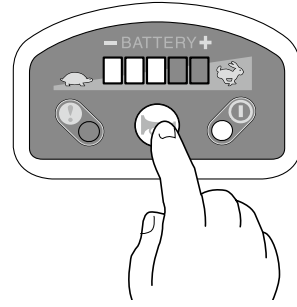
- バッテリーがなくなると、残量表示が「E」となり点滅し、ブザーが『ピー』と1回鳴り、車いすが停止します。



5. その他の機能

【旧仕様・新仕様共通】

- 警笛（ホーン）を使う
自走用操作部のホーンスイッチを押すと、警笛（ホーン）が鳴ります。
- オートパワーオフ機能
電源を入れた状態で操作レバーを10分間操作しないと、自動的に電源が切れます。
続けて走行する場合は一度電源スイッチを切って、1秒以上経過してから再度電源を入れなおしてください。

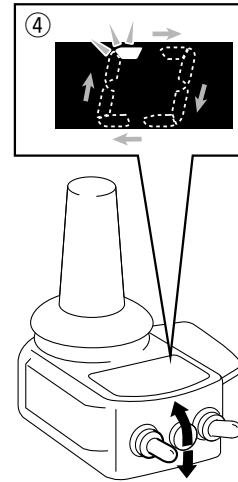


【新仕様】

- いたずら防止機能
切替スイッチや操作レバーの誤作動を防ぐことができます。

設定のしかた

- ① 電源スイッチをオンにして速度を1までおとします。
- ② 速度切替スイッチを下に長押しします。
- ③ ピッと音が鳴ったら、ホーンスイッチを長押しします。
- ④ ピッと音が鳴り、図のような表示に切り替え終わったら設定完了です。



解除のしかた

- ① 速度切替スイッチを上長押しします。
- ② ピッと音が鳴ったら、ホーンスイッチを長押しします。
- ③ ピッと音が鳴り、通常表示に切り替わったら解除完了です。

- 転倒防止バー出し忘れお知らせランプ
転倒防止バーが出されていない場合、ランプとブザーでお知らせします。
液晶画面には「C3」と表示され、転倒防止バー出し忘れお知らせランプが点灯します。
転倒防止バーを引き出すとランプが消え、ブザーが鳴り止みます。



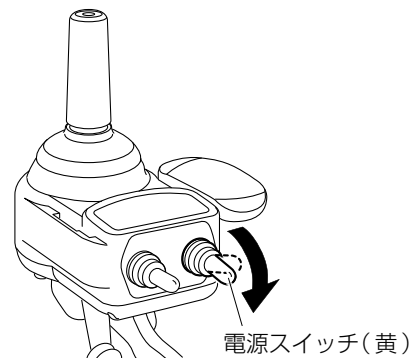
転倒防止バー
出し忘れ
お知らせランプ

6. 車いすから降りる

- ① 車いすを必ず平坦な場所に停めてください。
- ② 電源スイッチを切ります。
- ③ 駐車ブレーキを両輪に掛けてください。

⚠ 警告

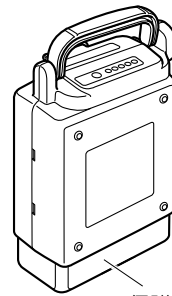
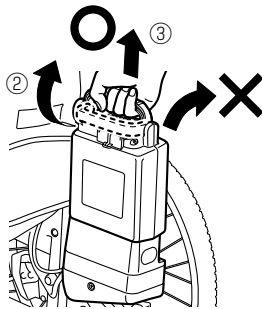
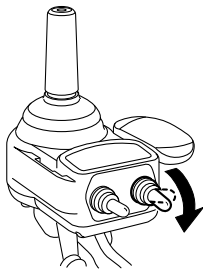
- クラッチレバーは電動側の状態にしてください。
- フットサポートに立ったり、直接体重をかけないでください。
フットサポートが破損したり、バランスをくずし、倒れるおそれがあります。



7. バッテリーを取り外す

リチウムイオンバッテリーの取り外しかた

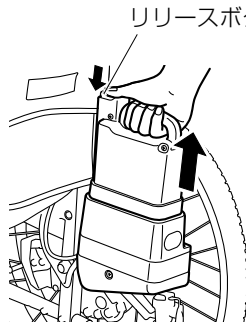
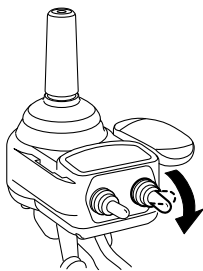
- ①電源スイッチを切ります。
- ②グリップをまっすぐに立てます。
- ③バッテリーを上にもっすぐ引き抜きます。
※斜めに引き抜かないでください
- ④バッテリーに保護キャップをつけて保管します。



保護キャップ

ニッケル水素バッテリーの取り外しかた

- ①電源スイッチを切ります。
- ②リリースボタンを押しながら上にもっすぐ引き抜きます。
- ③バッテリーに保護キャップをつけて保管します。



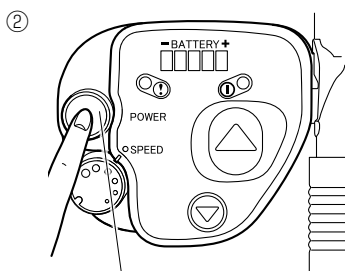
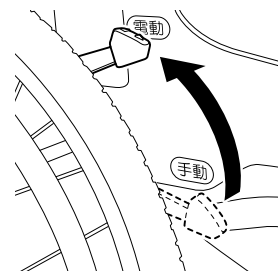
保護キャップ

8. 介助用操作部の使いかた

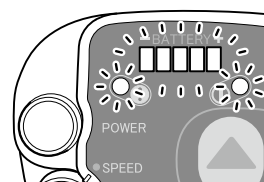
- ①クラッチレバーを電動側にします。
- ②介助用操作部の電源スイッチを入れます。
電源を入れると下のようにランプの表示が変化します。走行中は、介助用操作部のバッテリー残量ランプでいつでもバッテリー残量を確認することができます。

⚠ 注意

バッテリー残量が約10%以下の状態で電源スイッチを入れると、警告ランプが点滅し、ブザーが「ピピピピ」と4回鳴ります。走行中に残量が10%以下になった場合も同様にランプが点滅しブザーが鳴ります。早めに充電してください。

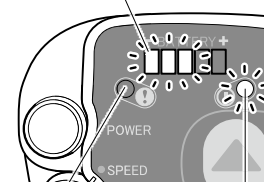


電源スイッチ(黄)



全てのランプが点灯します。

1秒経過



警告ランプ(赤)が消灯します。

電源ランプ(緑)は点灯したままです。

バッテリー残量ランプが現在のバッテリー残量を表示します。

● : 消灯

☀ : 点灯

☀ : 点滅

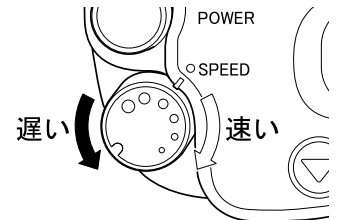
③ 必要に応じて速度の調整をします。

速度調整ダイヤルを時計回りに動かすと速度は速くなります。

反時計回りに動かすと速度は遅くなります。

最初は、遅くなるように速度を調整し、走行に慣れてから徐々に速度を調整してください。

速度は前進時 1.0～4.9km/h、後進時 0.4～1.9km/h の範囲に無段階で調整できます。



④ 駐車ブレーキを解除します。

⑤ 最初に速度を最低にセットして、前進・後進のスイッチを短く押して、車いすが正しく動くことを確認してください。

前進（後進）スイッチを押すと走り出します。

前進（後進）スイッチを離すと停止します。

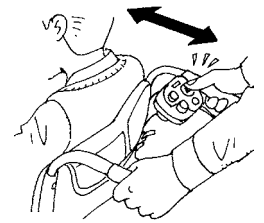
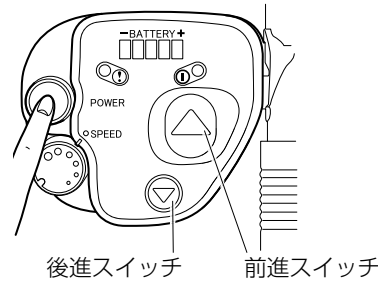
グリップ（押し手）をしっかり握ってください。

進行方向を変えたり、旋回したりするときは

グリップ（押し手）で操作してください。

介助用操作部の位置や角度を調整する場合は

P10「3. 自走用操作部の調整のしかた」を参照してください。



基本操作

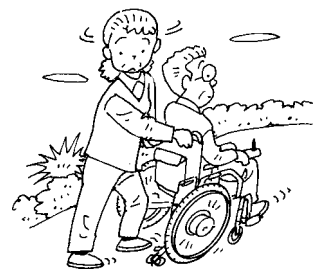
● 進行方向を変えたり旋回する場合

グリップ（押し手）で操作してください。



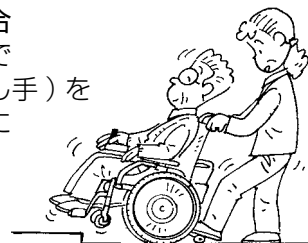
● 坂道を下る場合

前のめりになるおそれがありますので後進で下ってください。



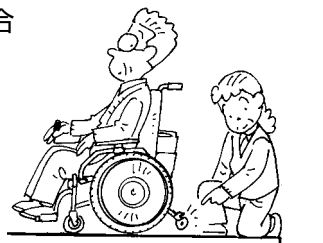
● 小さな段差を乗り越える場合

転倒防止バーを静かに足で踏みながらグリップ（押し手）を下に押し、車いすを後ろに傾けて、キャストを上げてください。



● 大きな段差を乗り越える場合

転倒防止バーを格納して乗り越えます。段差を乗り越えた後は、必ず転倒防止バーを出してください。



△ 注意 段差を乗り越える場合は電源を切り、クラッチレバーを手動側にして行ってください。

介助操作が終わったら

① 車いすを平坦な場所に停めます。

② 電源スイッチを切ります。

③ 駐車ブレーキを両輪に掛けます。

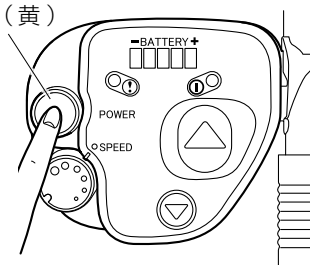
④ クラッチレバーは電動側の状態にします。

⑤ 車いすに乗っている方に降りてもらいます。

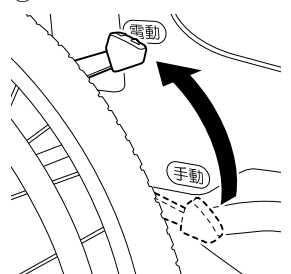
⑥ 車いすからバッテリーを抜きます。

バッテリーには保護キャップをつけて保管します。

② 電源スイッチ（黄）



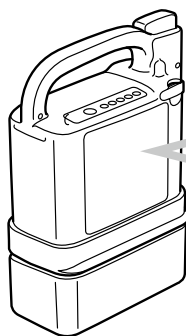
④



10 バッテリーのご使用方法

1. バッテリーの種類

本製品に使うことができるバッテリーにはリチウムイオンバッテリーとニッケル水素バッテリーの2種類があります。いずれも、マイコン内蔵乾式密閉型（ドライタイプ）のバッテリーですが、それぞれのバッテリーで特性や充電の方法が違いますので、下記を確認してください。



バッテリーのラベルを確認してください。リチウムイオンバッテリーのラベルには『Li-ion 00』と表示されています。ニッケル水素バッテリーのラベルには『Ni-MH』と表示されています。

リチウムイオンバッテリーとニッケル水素バッテリーには、それぞれ専用の充電器が付属しています。

2. バッテリーの特長

[リチウムイオンバッテリー・ニッケル水素バッテリー共通]

- バッテリーマネジメントコントロールシステム（BMC）を内蔵しています。（マイコン内蔵型）これは充放電状況、使用状況、温度状況などをコンピューター管理するシステムです。
- 水銀・カドミウムを含まない自然環境にやさしいバッテリーです。

[リチウムイオンバッテリー]

- 1回の充電で30km走行が可能な大容量バッテリーです。（容量 25V×11.2Ah）ニッケル水素バッテリーと比べて大きな電気容量です。
- メモリー効果が起きにくいので、リフレッシュ充電は不要で、継ぎ足し充電をすることが可能です。

[ニッケル水素バッテリー]

- コンパクトながら15km走行が可能なバッテリーです。（容量 24V×6.7Ah）
- 軽量で持ち運びやすく、充電器に差しやすいバッテリーです。

3. バッテリーの使いかた

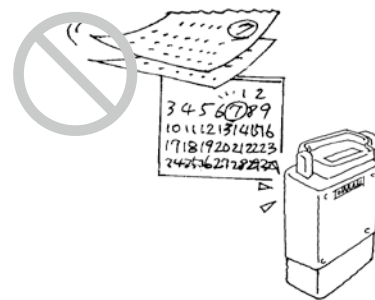
- 車いすへの取り付け、取り外し
バッテリーの車いすへの取り付け、取り外しはP13「3.バッテリーの残量確認と取り付けかた」P25「7.バッテリーを取り外す」を参照してください。
- バッテリー残量の確認方法
P13「3.バッテリーの残量確認と取り付けかた」を参照してください。
- バッテリーの保管方法
バッテリーを保管するときには、涼しくて乾燥した場所を選んで保管してください。バッテリーを保管するときには必ず保護キャップを取り付けてください。

[リチウムイオンバッテリー]

長期間使用しないときは容量表示ランプが3つ点灯するように充電してから保管してください。使用しないで3ヶ月以上保管する場合は、3ヶ月おきに容量表示ランプが3つ点灯になっているかを確認して、2つ点灯以下のときには3つ点灯になるまで充電してください。

[ニッケル水素バッテリー]

長期間使用しないときはバッテリーを満充電（容量いっぱいまで充電）して保管してください。使用せず3ヶ月以上保管をされる場合は、3ヶ月おきに満充電まで充電をしてください。



4. バッテリーの特性と取り扱い

● 温度環境

温度環境によっては、走行できる距離が短くなる場合があります。
バッテリーの性能を活かして使うために、次のような条件で使うことをおすすめします。

車いすに取り付けて使うとき	: 気温が0℃から35℃の範囲
車いすから取り外して保管しておくとき	: 気温が10℃から25℃の範囲
充電するとき	: 気温が10℃から25℃の範囲

- 充電中バッテリーの保護のため、バッテリーの内部温度が0℃以下または40℃以上のときには充電を始めずに待機状態になります。このとき、充電ランプ（緑）は点滅しています。待機状態のときにバッテリーの温度が適温になると充電ランプは点滅から点灯に変わり、自動的に充電が始まります。

（待機時間の長さは条件により異なります）

- 充電中にバッテリー温度が上昇し45℃（ニッケル水素バッテリーは50℃）を超えるとバッテリーの保護のために、充電器の電源が切れます。この場合、充電は完了していませんのでバッテリー温度が下がってからもう一度充電してください。新品のバッテリーや走行直後のバッテリーは、充電するときにバッテリー温度が上昇しやすいため、充電が途中で終わってしまう現象が起きやすくなります。

[リチウムイオンバッテリー]

- 走行中バッテリーの内部温度が高くなりすぎたり、低くなりすぎるとブザー音でお知らせします。バッテリーの内部温度が0℃以下または45℃以上の状態が5秒間続くとブザー音（ピッピッピッピの連続音）でお知らせします。ブザーが鳴ったときには、すみやかに推奨使用温度範囲内の環境に戻して使用してください。
- 車いすで坂道を下るときには、駆動モーターが通常とは逆に発電を行って、バッテリーを充電します。バッテリーの温度が0℃以下または45℃以上の状態で充電を行うと、劣化が極端に進んでしまうため、バッテリー保護の理由でこのような温度のときには車いすが下り坂で動かなくなることがあります。このとき、停止する前にピーピーピーピー（長音5回）とブザー音が鳴り、10秒後にピー（長音）とブザー音が鳴って止まります。



[ニッケル水素バッテリー]

バッテリーの内部温度が0℃以下または40℃以上のときにリフレッシュ充電をすると、残っていた電気の放電が終わって通常の充電が始まる時に、待機状態になってしまうことがあります。

▲ 注意

充電中に充電器の温度が上がると、冷却ファンが自動的に作動します。充電中は吸気口、排気口をふさがないでください。

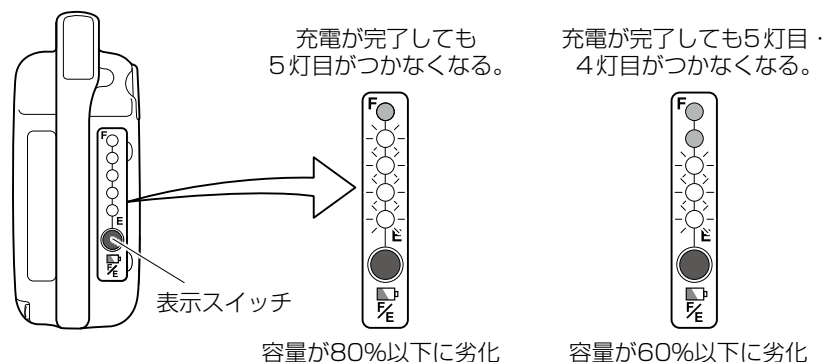
● バッテリーの充電表示機能

容量表示ランプが1つ点滅（残量警告）になった場合は、ただちに充電してください。

充電が終わったあとで、バッテリーの表示スイッチを押して充電できた量を確認することができます。

充電完了後、全てのランプがつかないときは、以下の原因が考えられます。

- 充電中にバッテリーの温度が上がりすぎて保護のために充電が中断した。
- ニッケル水素バッテリーの場合、劣化が進んで容量が減少してきている。



● : 消灯 ◐ : 点灯 ✨ : 点滅

● バッテリーの劣化について

バッテリーは消耗品です。バッテリーは使うことによって、また時間が経過することによっても徐々に劣化し、容量は減少します。

劣化によって容量が減少する度合いは、使用条件によって異なります。

※ 未使用であっても長期間保存した場合は、バッテリーは劣化し容量は減少します

▲ 注意

早期に劣化の表示がされた場合は、当社にご連絡ください。

[リチウムイオンバッテリー]

充電完了時の満充電表示は、劣化状態でも5つ全てのランプが点灯します。

※リチウムイオンバッテリーは劣化の進み方がおだやかなため、この表示方式を採用しています

[ニッケル水素バッテリー]

劣化によって容量が減少する度合いは、使いかたによって異なります。ニッケル水素バッテリーでは一般的な使いかたの場合、充放電回数300回で新品時容量の約60%に減少します。

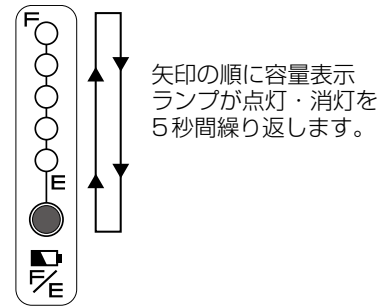
● バッテリーの寿命について

[リチウムイオンバッテリー]

最初の充電開始より8年または、積算充電容量8000Ahです。

寿命のお知らせは寿命で充電できなくなる約3ヶ月前、または積算充電容量が7800Ahに達した時点から容量表示ランプでお知らせします。充電完了時、充電プラグを抜いた後に右図のように容量表示ランプが点灯・消灯します。

※ 完全に寿命に達した場合は、充電時充電器のランプが点灯せず、バッテリーの容量表示ランプが点灯しなくなり充電できません



▲ 注意

● バッテリーは、工場出荷後の最初の充電日を使用開始日と認識します。

バッテリー底面の製造年月日とは一致しません。

● 積算充電容量が8000Ahに達した場合には、使用開始日から8年が経過していなくても使用できなくなります。

※ 積算充電容量8000Ahは、残量ゼロから満充電したときの約700回分です

[ニッケル水素バッテリー]

寿命のお知らせは、充電が完了しても表示ランプが2つのみ点灯するときが寿命となります。

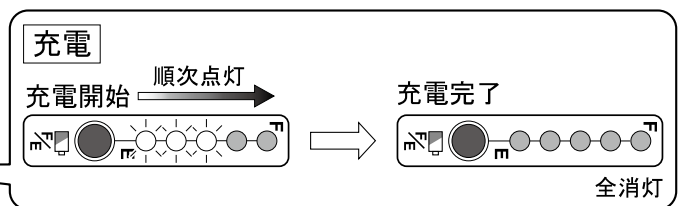
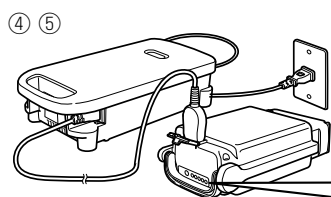
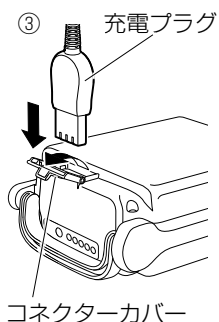
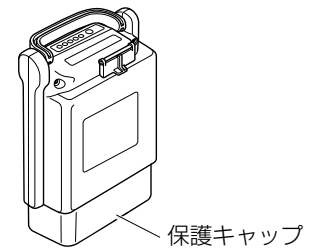
5. バッテリーの充電方法

[リチウムイオンバッテリー]

バッテリーを取り外して充電する方法(卓上充電)とバッテリーを車いすに装着したまま充電する方法(車載充電)の二つの方法があります。

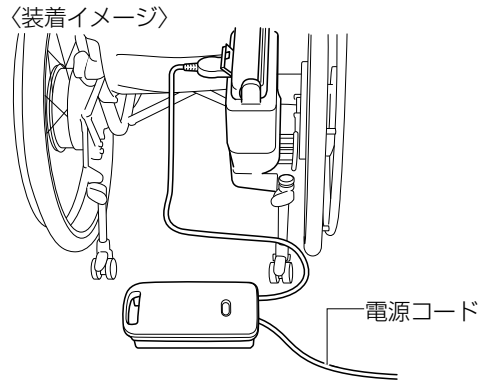
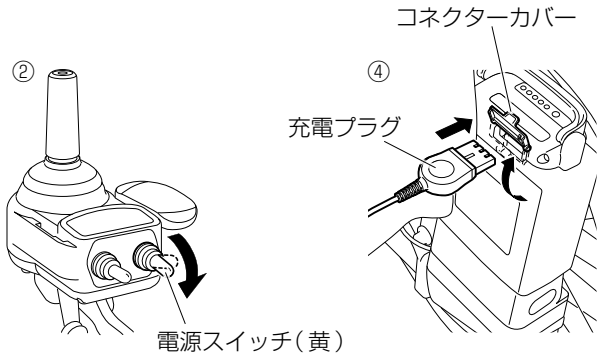
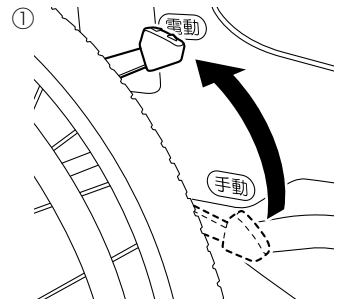
● バッテリーを取り外して充電する場合(卓上充電)

- ① バッテリーに保護キャップがついていることを確認します。
ついていない場合には、必ず保護キャップをつけてください。
- ② 専用充電器に電源コードを差し込み、家庭用コンセントに接続します。
- ③ バッテリーを寝かせた状態にしてコネクターカバーをあげ、充電プラグをバッテリーの充電用コネクターに差し込みます。
- ④ 充電器の充電ランプが緑色に点灯することを確認します。充電ランプが緑色に点灯しない場合はP32「6. 充電ランプの表示と内容」を参照してください。
- ⑤ 充電中はバッテリーの充電状況を充電ランプで確認することができます。
充電が終わると充電ランプが消えます。
バッテリーが空の状態から充電を始めた場合、満充電までの時間は4.5時間前後です。
- ⑥ 充電完了後、充電プラグおよび電源プラグを抜きバッテリーのコネクターカバーをしっかりしめます。

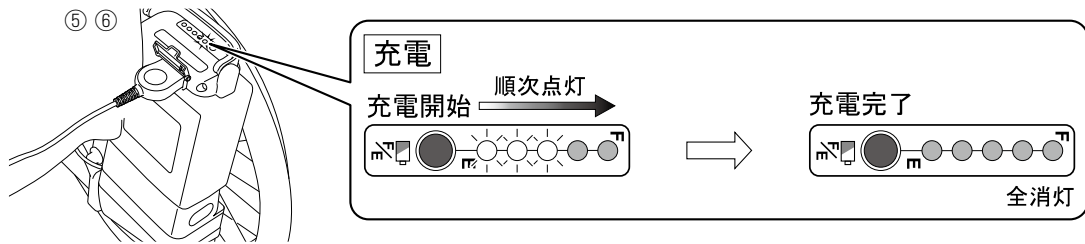


● バッテリーを車いすに装着したまま充電する場合（車載充電）

- ① 充電の準備をします。
室内の平坦な場所に車いすを置き、駐車ブレーキをかけ、さらにクラッチレバーを電動側に入れます。
- ② 車いすの電源スイッチを切ります。
※ 危険防止のために車載充電中はスイッチを操作しても電源は入りません
- ③ 専用充電器に電源コードを差し込み、家庭用コンセントに接続します。
- ④ 充電器の充電プラグをバッテリーの充電用コネクタに差し込みます。

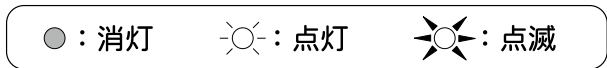
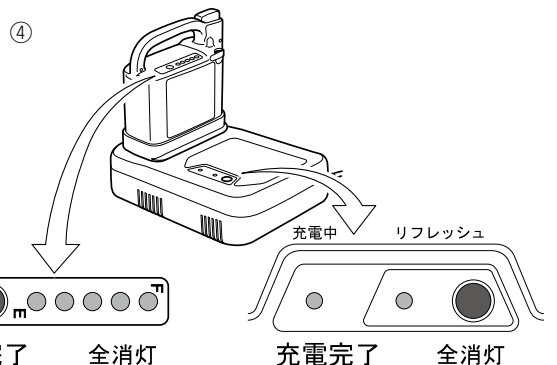
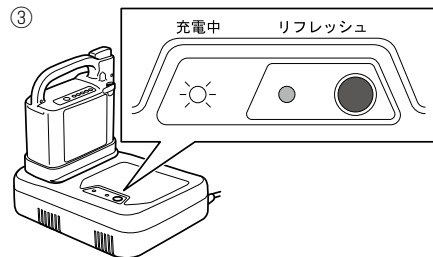
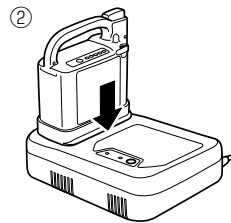


- ⑤ 充電器の充電ランプが緑色に点灯することを確認します。
- ⑥ 充電中はバッテリーの充電状況を表示ランプで確認することができます。
充電が終わると表示ランプが消えます。
バッテリーが空の状態から充電を始めたとして、充電完了までの時間は4.5時間前後です。
- ⑦ 充電完了後、充電プラグおよび電源プラグを抜きバッテリーのコネクタカバーをしっかりと締めます。

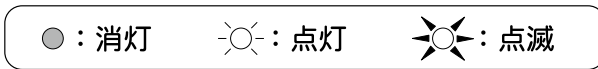
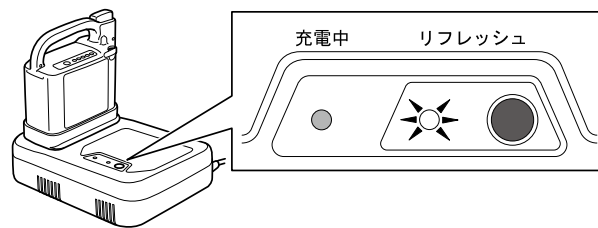


【ニッケル水素バッテリー】

- ① 専用充電器に電源コードを差し込み、家庭用コンセントに接続します。
- ② 充電器にバッテリーを右図のように差し込みます。
- ③ 充電器の充電ランプ（緑）が点灯し、充電が始まります。
バッテリーの容量表示ランプが点灯し、充電量に従って点灯しているランプの数が増えていきます。
※ バッテリーが空の状態から充電を始めた場合、満充電までにかかる時間は、通常2.5～3時間です。
高い温度の場所で充電するときや、新品のバッテリーを充電するときには、さらに時間がかかる場合があります
- ④ 充電が終わったことを確認します。
充電が完了するとバッテリーの容量表示ランプや充電器の充電ランプ（緑）が消えます。



- ⑤ 電源プラグをコンセントから抜きバッテリーを充電器から抜きます。
 バッテリーをそのまま保管する場合は、保護キャップをつけて保管してください。
 充電ランプ（緑）がつかず、リフレッシュランプ（橙）が点滅したときには下記を参照してください。



● リフレッシュ充電のしかた

ニッケル水素バッテリーはメモリー効果の解消と予防のためのリフレッシュ充電を行う必要があります。バッテリーを充電器にセットしたときにリフレッシュランプが点滅した場合にはリフレッシュスイッチを押してリフレッシュ充電を行ってください。

※ 充電回数が、約20~30回に1回の割合でリフレッシュランプが点滅します

● メモリー効果とリフレッシュ充電

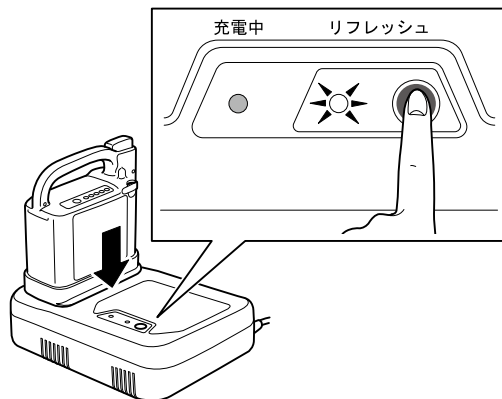
ニッケル水素バッテリーは、少しだけ使ってすぐに充電しなおすような使いかたを繰り返すと、実際に使える容量が減少する現象（メモリー効果）が発生します。

メモリー効果は、リフレッシュ充電（バッテリーに残っている電気を全て放電してから充電しなおすこと）で予防および解消ができます。

リフレッシュ充電が必要になると、バッテリーの中のマイコンが充電器に情報を送り、充電器のリフレッシュランプを点滅させます。

充電しようとしてバッテリーを充電器に差し込んだときに、充電器のリフレッシュランプが点滅した場合は、リフレッシュボタンを押してリフレッシュ充電を実施してください。

リフレッシュ充電には、通常の充電に比べて長い時間が必要です。

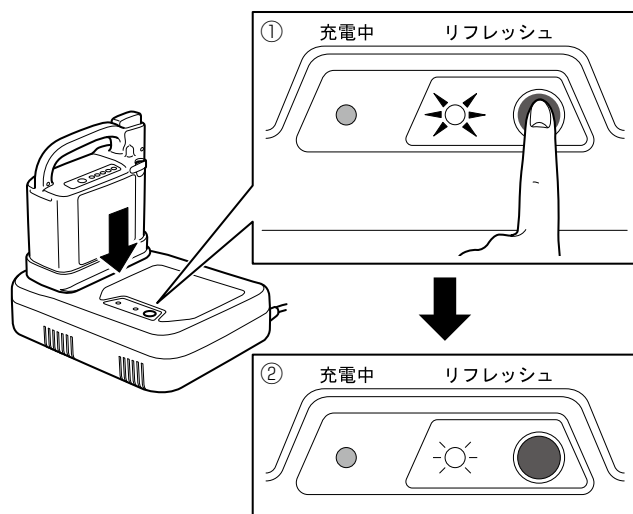


- ① リフレッシュランプ（橙）が点滅中にリフレッシュスイッチを押します。

※ リフレッシュランプ（橙）は、リフレッシュ充電が必要な場合にだけ点滅します

- ② リフレッシュランプ（橙）が点滅から点灯にかわってリフレッシュ充電が始まります。

リフレッシュ充電中、バッテリーに残っていた電気を全て放電し終わるとリフレッシュランプが消え、充電ランプが点灯し、通常充電が始まります。リフレッシュ充電開始から通常充電完了までにかかる時間は、3~15時間です。



- リフレッシュ充電中にバッテリー温度が上がり、充電ランプ（緑）が点滅して充電が待機になることがあります。

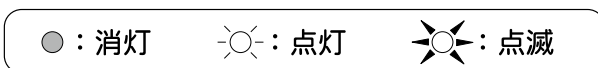
バッテリーの温度が適温になると、充電ランプが点滅から点灯に変わり、自動的に充電が始まります。

- リフレッシュスイッチを押し損ねた場合

バッテリーを抜いてもう一度差し込むとリフレッシュ充電の合図が出て、リフレッシュ充電をすることができます。

- リフレッシュランプ（橙）が点滅した状態でリフレッシュスイッチを押さなかった場合

約1分間経過するとリフレッシュランプの点滅が消え、充電ランプが点灯し、通常充電が始まります。この場合は次の充電のときにふたたびリフレッシュランプが点滅します。



ポイント 上手な充電のしかた

- バッテリーは、車いすを使わない時間帯に充電することをおすすめします。
- リフレッシュ充電は、バッテリーに残った電気を一度放電した後に充電するため、バッテリー残量が多い場合に実施すると時間がかかります。バッテリーをできるだけ使い切った状態でリフレッシュ充電をすることをおすすめします。

6. 充電ランプの表示と内容

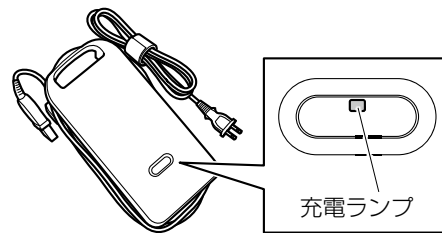
● 緑色の点灯

通常充電中です。
充電が終わると充電ランプが消えます。

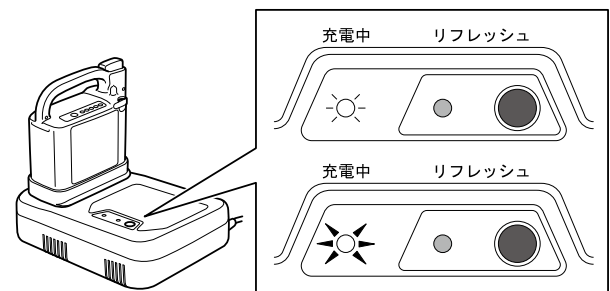
● 緑色の点滅

充電待機中です。
 ・バッテリー温度が充電可能範囲 (0℃～40℃) 外
 のときには、待機状態になって充電ランプが緑色に
 点滅します。
 ・待機中にバッテリーの温度が充電可能範囲になると、
 緑色の点灯に変わり自動的に充電を開始します。
 ただし充電待機が長時間続くと充電を中止します。
 このとき、充電ランプは緑色の早い点滅をします。

[リチウムイオンバッテリー]



[ニッケル水素バッテリー]



[リチウムイオンバッテリー]

● 赤色の点灯または点滅

充電器またはバッテリーの異常を検出したため充電できません。いったん充電プラグと電源プラグを抜いて充電を中止し、バッテリー、充電器、コードの接続などに異常がないかを確認してから再度充電してください。再び充電ランプが赤色に点灯または点滅する場合は機器の故障が考えられます。充電プラグと電源プラグを抜いて充電を中止し、当社にご連絡ください。

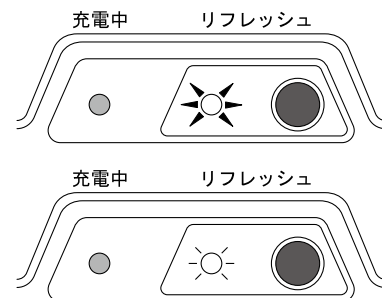
[ニッケル水素バッテリー]

● リフレッシュランプ（橙）が点滅

リフレッシュ充電の開始要求中です。
リフレッシュランプが点滅している間にリフレッシュボタンを押して、リフレッシュ充電を開始してください。
リフレッシュボタンを押さなかった場合、約1分後に通常充電がはじまります。

● リフレッシュランプ（橙）が点灯

リフレッシュ充電で、バッテリーに残っている電気を放電しています。
放電が完了すると通常充電がはじまります。



● : 消灯 ☀ : 点灯 ☀ : 点滅

⚠ 警告

● バッテリーや充電器はまちがった取り扱いをすると、発熱、破裂、感電、ケガの原因になります。必ずP27の「バッテリーのご使用方法」を確認してください。

11 保守・点検

1. 日常のお手入れ

- 使用する前には必ずP12「5 使用前の準備と点検」を確認し、常に安全な状態で使用してください。
- 車いすは湿気に弱いので、水のかかる場所などに放置しないでください。
- フレームはときどき乾いた布でふいて、汚れを除いてください。
- 座面シートが汚れたときには、強く絞った布などですぐにふき取ってください。
- ひどい汚れの場合は、薄めた中性洗剤とブラシを使用して汚れを落としてから常圧の水道水を清掃した場所にやさしくかけてください。作業が終了後ただちに雑巾などで水分をふき取って乾燥させてください。

△注意

- バッテリーを装着したまま水洗いをしないでください。
- バッテリーシート部分に直接水をかけないでください。
- 高圧洗浄機やスチーム洗浄機で車いすを洗浄しないでください。

2. 保管方法

- 車いすは直射日光が当たる所、雨に濡れる所、湿気の多い所を避けて保管してください。
- バッテリーは湿気の多い所や、高温になる所を避けて保管してください。

△注意

車いすを使用しないときは、バッテリーを必ず外し、駐車ブレーキを掛けておいてください。
子どもや、操作を知らない人が操作すると危険です。

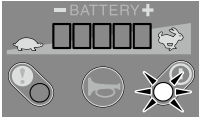

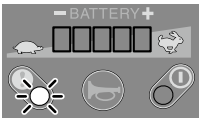

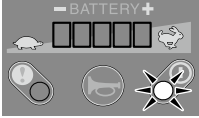

バッテリーの長期保管

- バッテリーを長期保管する場合は、P27「3.バッテリーの使いかた」を参照してください。

12 故障かな？と思ったら

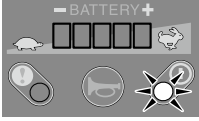

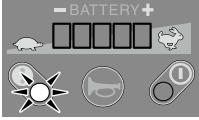


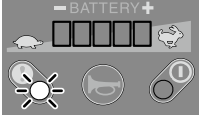
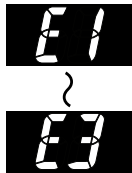
故障ではない場合もありますので、修理を依頼される前にもう一度、以下の項目をチェックしてください。

走行時

こんなとき	自走用操作部の表示	ブザー	ここを確認	こうしてください
走行中に止まってしまう、走り出さない	【旧仕様】緑点滅  【新仕様】 	ピピッ (4回)	クラッチレバーが手動側になっていませんか	クラッチレバーを電動側に入れてください
	【旧仕様】赤点灯  【新仕様】 	ピーツ	バッテリーが切れていませんか	バッテリーを充電してください。 バッテリーに問題が無ければ当社にご連絡ください
			リチウムイオンバッテリーを使っていて外気温が氷点下の時や夏の炎天下で走行していませんか。また外気温が氷点下になる場所や車内など高温になる場所で保管していませんか	バッテリーが適温になるまで待機してください。またはクラッチレバーを手動側に切り替えて走行してください
	—	—	バッテリーが正しく差し込まれていますか	バッテリーを正しく差し込んでください
	【旧仕様】緑点滅  【新仕様】 	—	自走のときに介助用操作部の電源が入っていませんか	いったん両方の電源をオフにして自走用操作部の電源をオンにします
			介助のときに自走用操作部の電源が入っていませんか	いったん両方の電源をオフにして介助用操作部の電源をオンにします

● : 消灯 ☀ : 点灯 ☀ : 点滅

走行時

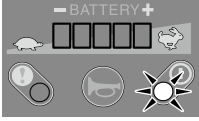

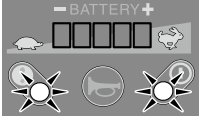



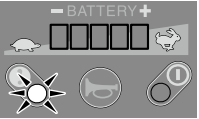


こんなとき	自走用操作部の表示	ブザー	ここを確認	こうしてください
走行中に止まってしまう、走り出さない	【旧仕様】緑点滅  【新仕様】 	ピーツ	操作レバーを倒したまま電源をオンにしていますか	操作レバーを中立にして電源操作をやり直してください。直らない場合は当社にご連絡ください
	—	—	オートパワーオフで自動的に電源が切れたままになっていませんか	電源スイッチをオンからオフにして電源を入れ直してください
	【旧仕様】赤点滅  【新仕様】 	ピーツ	無理な走行をした後でモーターがオーバーヒートしていませんか	電源を切ってしばらく休んでから走行してください
操縦できない	—	—	車いすのブレーキが掛かっていますか	ブレーキを解除してください
	【新仕様】のみ 	—	いたずら防止機能を設定していませんか	いたずら防止機能を解除してください
	【旧仕様】赤点灯  【新仕様】 	ピーツ	操作部が作動していますか	当社にご連絡ください

● : 消灯

○ : 点灯

☀ : 点滅

走行時

こんなとき	自走用操作部の表示	ブザー	ここを確認	こうしてください
パワー不足	【旧仕様】緑点滅  【新仕様】 	ピーッの繰り返し	大きな負荷が掛かっていませんか	積載荷重や登坂角度を確認してください
	【旧仕様】緑点滅 赤点滅  【新仕様】   	ピッの繰り返し	大きな負荷が掛かり、オーバーヒートしていませんか	負荷が低くなるようにしてオーバーヒートしないようにしてください
	—	—	外気温が下がっていませんか	温度が下がるとバッテリーのパワーは弱くなります
	—	—	バッテリーが劣化していませんか	新しいバッテリーに交換してください。ニッケル水素バッテリーの場合はリフレッシュ充電をしてください
	【旧仕様】赤点滅  【新仕様】 	ピピピッを4回繰り返し	バッテリーの残量は充分ですか	速やかに安全な場所に移動し、電源を切って、バッテリーを充電してください
ブザーが鳴り続ける	【新仕様】のみ 	ピピー、ピピーを繰り返し	転倒防止バーが折りたたまれていませんか	転倒防止バーを出してください
手動操作が重い	—	—	タイヤの空気圧が低くありませんか	タイヤの空気を入れてください
	—	—	車いすのブレーキが掛かっていませんか	ブレーキを解除してください

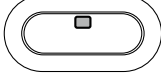
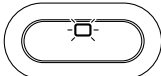

●：消灯

☉：点灯

☀：点滅

こんなとき	自走用操作部の表示	ブザー	ここを確認	こうしてください
走行距離が短い、スピードが出ない	—	—	バッテリーが十分に充電されていますか	新しいバッテリーに交換してください。ニッケル水素バッテリーの場合はリフレッシュ充電をしてください
	—	—	外気温が下がっていませんか	温度が下がるとバッテリーのパワーは弱くなります
	—	—	重たい荷物をのせていたり、坂道を走行していませんか	負荷が大きくなると走行距離も短くなります
	—	—	スピード設定が低速側になっていませんか	高速側に調整してください
介助側のブレーキが効かない	—	—	ブレーキレバーの遊びが多くありませんか	当社にご連絡ください
介助側のブレーキが片効きする	—	—	左右のブレーキのバランスがとれていますか	当社にご連絡ください
ブレーキをかけると音が出る	—	—	ブレーキドラムに傷が付いていたり、ブレーキシューが減っていませんか	当社にご連絡ください
	—	—	長時間ブレーキを掛けていませんか	ブレーキは掛け具合によって音が出ますが異常ではありません
異常な振動や異音が出る	—	—	車軸取付け部がゆるんでいませんか	当社にご連絡ください
	—	—	駆動部から異音がしませんか	当社にご連絡ください
	—	—	車いすフレームやフロントキャストにガタつきは出ていませんか	当社にご連絡ください

充電時（リチウムイオンバッテリー）

こんなとき	充電器 LED表示	バッテリー LED表示	ここを確認	こうしてください
充電しない	消灯 	消灯	電源コードが接続されていますか	接続してください
	赤の点灯 	消灯		バッテリーの故障が考えられます。当社にご連絡ください
	赤の点滅 	消灯	バッテリーと充電器を再接続後同じ現象が出ますか	バッテリーと再接続後同じ現象が出る場合バッテリーの故障が考えられます。当社にご連絡ください

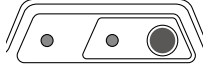

●：消灯

○：点灯

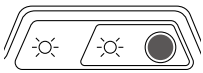
⊙：点滅

こんなとき	充電器 LED表示	バッテリー LED表示	ここを確認	こうしてください
充電待機中が 続く	緑の点滅 	残量表示ランプ が点灯	バッテリーの温度が 適温ですか	適温になるまで 待ってください
			周囲温度が適温ですか	充電適温場所で 充電してください
充電器が高温に なる	ランプは 状態により点灯 	残量表示ランプ が点灯		充電器は50℃くらいに なる場合がありますが、 異常ではありません
バッテリーが 異常に高温に なる	ランプは 状態により点灯 	残量表示ランプ が点灯		充電をすぐに中止して 当社にご連絡ください
充電器から異臭 がする	ランプは 状態により点灯 	残量表示ランプ が点灯	使用開始直後ですか	開始直後は臭うことが ありますが、徐々に 臭わなくなります。 継続的に臭う場合は使用を 中止してください。充電器 の故障が考えられます。 当社にご連絡ください

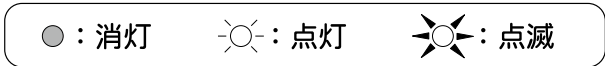
充電時 (ニッケル水素バッテリー)

こんなとき	充電器 LED表示	バッテリー LED表示	ここを確認	こうしてください
充電しない	消灯 	消灯	電源コードが接続されて いますか	接続してください
				他のバッテリーで充電 できなければ、充電器の 故障が考えられます。 当社にご連絡ください
	緑と橙が 交互に点滅 	消灯		バッテリーのヒューズが 切れている可能性が あります。 当社にご連絡ください
				他のバッテリーで充電 できなければ、充電器の 故障が考えられます。 当社にご連絡ください

● : 消灯 ◯ : 点灯 ✨ : 点滅

こんなとき	充電器 LED表示	バッテリー LED表示	ここを確認	こうしてください
充電待機中が 続く	緑の点滅 	残量表示ランプ が点灯	バッテリーの温度が 適温ですか	適温になるまで待つて ください
			周囲温度が適温ですか	充電適温場所で充電して ください
充電が途中で 終わる	消灯 	残量表示ランプ が途中まで点灯	バッテリーの温度が 上がっていませんか	バッテリー温度が 下がってからもう一度 充電してください
充電時間が長い	橙の点灯 	残量表示ランプ が点灯、 順次消灯	リフレッシュ充電をして いますか	バッテリーの放電中です。 リフレッシュ充電は 3~15時間かかることが あります
充電が完了したが ランプが全部 つかない	消灯 	残量表示ランプ が途中まで点灯	使用回数や使用日数を 確認してください	バッテリーが劣化して いませんか。
充電器から音が 出る	ランプは 状態により点灯 	残量表示ランプ が点灯	冷却ファンが回る音が していますか	充電器を冷却しています。 充電器の状態でファンが 回ったり止まったりします
充電器が異常に 高温になる	ランプは 状態により点灯 	残量表示ランプ が点灯	冷却ファンが回る音が していますか	充電器は50℃くらいに なる場合がありますが 冷却ファンが作動して いれば正常です。 冷却ファンが作動しない 場合は当社にご連絡 ください
充電器から 異臭がする	ランプは 状態により点灯 	残量表示ランプ が点灯	使用開始直後ですか	開始直後は臭うことが ありますが、徐々に 臭わなくなります。 継続的に臭う場合は使用を 中止し当社にご連絡 ください

※ チェックしても正常に使用できない場合、または破損や異常を発見した場合はすぐに使用を中止して、当社にご連絡ください



13仕様

機種	アクトモア エレッシュ			
	リチウムイオンバッテリー	ニッケル水素バッテリー		
全長×全幅×全高	103.5 (97.5) × 62.5 × 89.5cm			
重量	約32kg (約31.7kg)	約31.2kg (約32.5kg)		
タイヤ	前輪	6インチ		
	後輪	22インチ		
バッテリー (マイコン内蔵型)	ESB1 (25V11.2Ah) × 1個 (5時間率)	JWB2 (24V6.7Ah) × 1個 (5時間率)		
充電器	ESC1もしくはESC2 〈定格出力29.2V・3.0A (充電時)〉 マイコン制御による自動充電	JWC-2 〈定格出力29V・2.6A (充電時)〉 マイコン制御による自動充電		
駆動モーター (ACサーボモーター)	24V120W × 2 (30分定格出力)			
駆動方式	後輪直接駆動			
制動方式	電磁ブレーキ+モーター回生制動			
操舵方式	ジョイスティック操舵			
制御方式	マイクロコンピューター制御			
実用登降坂角度	6度			
連続電動走行距離 ※ バッテリー満充電、常温25℃、 直線平坦路連続走行時の場合	約30km	約15km		
最高速度	自走操作	前進	第1速	約1.7km/h
		第2速	約2.4km/h	
		第3速	約3.1km/h	
		第4速	約3.8km/h	
		第5速	約4.5km/h	
	後進	第1速	約0.9km/h	
		第2速	約1.2km/h	
		第3速	約1.6km/h	
		第4速	約1.9km/h	
		第5速	約2.3km/h	
介助操作	前進	約1km/h～約4.9km/h		
	後進	約0.4km/h～約1.9km/h		
使用者最大体重 (積載物も含む)			100kg	

■製品の仕様は予告なしに変更することがあります。あらかじめご了承ください。

株式会社フロンティア

フクシのクトハ

フリー
コール **0120-294-518**

千葉本社 福祉本部 〒261-0002
千葉県千葉市美浜区新港42-4
TEL.043-301-8338



●アフターサービスのお問い合わせ

取扱店